

FREE



NICHIGO PRESS

オーストラリアの日本語総合誌 日豪プレス Since 1977
nichigopress.jp Vol.45 No.531

NOV & DEC 2022

日英バイリンガル・マガジン

Travel experience in Japan

KOYASAN

【特集】頼れる法律事務所2022

年を取っても健康体でいたいですよね!?
100歳になっても元気であるために
重要なのが血管の健康です。
血管が狭くなってしまうと
血圧が上がってしまうので
要注意です!



高血圧が 「死神からの招待状」 と呼ばれるのはなぜ?

高血圧が「死神からの招待状」や「沈黙の殺人者」などと呼ばれる理由は、【健康寿命】を脅かす心血管疾患の原因となるためです。

心血管疾患による死亡の約50%は、120/80 mmHgを超える血圧が原因であると推定され、EPOCH-JAPANは、120/80 mmHgを超える血圧レベルは、心血管疾患による死亡の50%、脳卒中による死亡の52%、冠動脈疾患による死亡の59%に繋がっていると公表しています。

心筋梗塞

狭心症

脳卒中

慢性腎臓病

網膜症

コレステロールは 血圧を高める主な原因

血管が狭くなると血圧はどうなる?

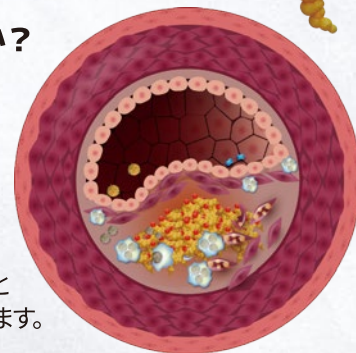
✓血圧は高くなる!

血管を狭くする原因は何か?

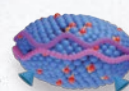
✓コレステロールの蓄積

コレステロールは血管内膜に蓄積して血圧を高める主な原因となります。

コレステロールキャリアのLDLが血管内膜にコレステロールを積みとプラークが作られ、血管は狭くなります。血液は狭い血管をより強い圧力で通過しなければならず結果、血圧が上がるのです。



血管健康のために
LDLを下げてHDLを上げ、
L/H比を意識しよう!



HDL



LDL



100歳になっても
健康に自信が持てるように
LDL数値とHDL数値を
管理しましょう!

コレステロールキャリアHDLは「コレステロールの清掃隊」とも呼ばれる優れたもの。周辺組織で使用し、残ったコレステロールや血管内膜に蓄積されたコレステロールを肝臓に戻したり、体外に排出してくれます。コレステロールが蓄積して狭く硬くなった血管を清掃することで、血管を通過する血液の圧力を減らすことができます。心血管疾患を予防するためには、LDLコレステロールとHDLコレステロールのそれぞれを管理するのではなく、2つのバランスが非常に重要だと言えます。

レイデル ポリコサノール

世界各国でコレステロール値改善機能が承認されたキューバ産ポリコサノール

キューバの主農産物であるサトウキビから抽出した成分であるポリコサノールのコレステロール値改善機能が、世界的に認められホットな話題となっています。キューバ産ポリコサノールはサトウキビの葉と茎のワックスから8種類の高級脂肪アルコールを抽出精算して作る機能性原料であり、1996年に世界知的財産権機構(WIPO)から「コレステロール低下剤」として発明部門で金メダルを授与、各国の機関から以下の承認を得ています。

- 2001年 オーストラリアTGA登録
- 2006年 韓国KFDA「コレステロール調節」機能性獲得
- 2019年 韓国KFDA「血圧調節」機能性獲得
- 2019年 日本消費者庁 機能性表示食品届出受理

AUSTRALIA



raydel.com.au

- ✓ コレステロール値を健康に保つのに役立つ
- ✓ 血中脂質レベルを健康に保つのに役立つ
(ポリコサノール 10mg /日)



オーストラリア国内配送 購入ページ ▲

Enquiries in English: info@raydel.com.au



JAPAN

- ✓ 総コレステロールを下げる
- ✓ LDL(悪玉)コレステロールを下げる
- ✓ LDL(悪玉)コレステロールとHDL(善玉)コレステロールの比率を改善する
(ポリコサノール 10mg /日)

raydel.co.jp



日本国内配送 購入ページ ▲

日本語でのお問い合わせは: shop@raydel.co.jp

RAYDEL

Policosanol 10

Sugar cane wax alcohols 10mg per tablet
Film-coated tablets

- Helps support healthy cholesterol
- Helps in the maintenance of healthy blood lipids

Cuban Active Ingredient

Directions for use: Take 1 tablet daily orally.
30 TABLETS

AUST L 283838

KOREA



- ✓ 血中コレステロール値の改善に役立つ
(ポリコサノール 5~20mg /日)
- ✓ 血圧をコントロールするのに役立つ
(ポリコサノール 20mg /日)



5 法律事務所特集2022

8 コミュニティ・ニュース

9 KINOKUNIYA「最新BOOKSトレンド・チェック」

10 日本語学校「みんなの将来の夢、聞かせて下さい!」

11 帰ってきたBBKコラム子育てパパ奮闘編

12 QLD百景／豪州ビザ最新事情

13 オーストラリア不動産の現状

14 日豪プレス法律相談室

15 花のある生活

16 【第17回】最先端ビジネス対談
公邸料理人・小形禎之さん

20 NSW州立美術館ボランティアガイド便り／福島先生の教育指導

21 日豪フットボール新時代／豪州ラグビー通信

22 Go! ワラビーズin Japan／タスマニア巡り

23 マーベラス・メルボルン

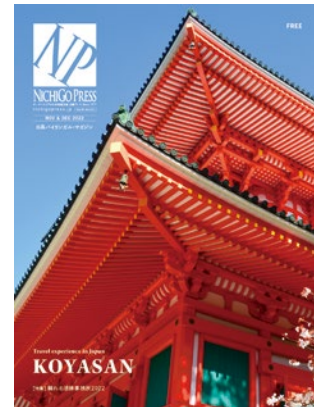
24 出倉秀男の日本料理と歩んだ豪州滞在記

25 きもの日和

26 Travel experience in Japan KOYASAN

33 Japanese Culture Snippets

- 今月の表紙 -



奥深い自然と精進世界が広がる神秘的な地、高野山。世界遺産にも登録されており、半径1キロ半に寺院や史跡などが凝縮した山上の宗教都市として知られるなど、近年注目されている観光スポットだ。今月は、巻末特集で同地の魅力をオーストラリア人にも伝えるべく、英語で掲載。10月11日から訪日観光客に対するビザ免除の再開、入国者上限の撤廃、個人旅行の解禁が実施。訪日外国人旅行者数の増加に大きな期待が寄せられる。

ORION STAR PROPERTY

居住用・投資用の不動産、その他スーパーアニュエイションを利用した購入のトータルプランニングを無料でサポート! レント管理売却のサービスも提供します。

www.orionstarproperty.com

Scan it

YouTube | Facebook | Instagram

orion star property

Customer Reviews

3年ほど前にシドニー郊外の物件を購入する際、同社の沖野さんが現地の不動産会社と私達の仲介をしてくださいました。細かい部分や不安な点についてダブルチェックをしていただき、大変助かりました。
-Kさん

プロに相応しい不動産購入の知識と情報を持ち、初めての物件探しをサポートしてくれました。モーゲージブローカーのことを比較できる無料コンサルも紹介してくれるなど、フェアな対応にとっても満足しています。
-ダニエルさん

年内最後のセミナー Since2009

296回 オリオンスタープロパティ オーストラリア不動産入門セミナー

オーストラリア不動産を賢く購入できる方法や注意点など、実際の事例を元にし、分かり易く説明、気になる疑問も解消できてスッキリ! 現在の不動産市場、住宅ローン、物件選定ノウハウなど、キホンから知りたいという方は、無料セミナーの機会をぜひお見逃しなく!

日程 | 11月17日22日【火】 18:00~ / 26日【土】 10:00~
12月10日【土】 10:00~ / 13日【火】 18:00~

会場 | Suite502, 10 Help St Chatswood
オリオンスター・プロパティセミナールーム (Chatswood駅から徒歩2分・駐車場あり)

予約先
電話: 0468 830 980 (担当: 沖野)
お名前、メールアドレス、参加希望日を明記の上、SMSにてご連絡ください。

A: Suite 502 10 Help st, Chatswood NSW T: 02 8094 9288 / 0423 541 023 H: www.orionstarproperty.com

経歴14年以上の不動産専門家に、なんでも日本語で相談できますよ!

オリオンスタープロパティ代表
ジャスミン・キム

オーストラリアに暮らす日本人必携の

医療保険

豪州一時滞在者専用 メディパック

メディパックの特徴は...

- 日本人にとって頻度が高い歯科治療、メガネ関連のカバーが充実
- ご予算とニーズに合わせて複数のプランをご用意
- 他のオーストラリア民間医療保険からの切り替え特典あり

Aon Risk Services Australia Limited
お問い合わせは 関口、斉藤 まで
TEL: (02) 9253-7075 (日本語直通)
E-mail: au.jis@aon.com
www.aon.com.au

AON

4500AONR

頼れるスペシャリスト 法律事務所 特集 2022

「弁護士に相談」と聞くと、ハードルが高いイメージを持ってしまう人も少なくないだろう。しかし、オーストラリアでは日本と異なり、弁護士は生活に密着したとても身近な存在で、ビジネス上の取引契約、ビザ申請、離婚・親権、財産分与、不動産購入など、さまざまな場面で弁護士に頼るべきシーンが出てくる。とはいえ、法律のみならず、文化や習慣など、背景や言語が異なる弁護士への相談に、不安を感じる人もいるだろう。そこで本特集では、日本人向けにサービスを提供するオーストラリアの法律事務所を紹介。数多く寄せられる相談などの事例紹介、専門家としてのアドバイスなど、話を伺った。

Q オーストラリア人の夫との離婚を考えています。子どもの親権など争点となることで注意が必要な点を教えてください。

A 婚姻生活が破綻し別居・離婚となり夫婦間に子どもがいた場合、どちらの親と一緒に住むのかという点が最大の争点となります。相手方配偶者の承諾を得ずに子どもを連れて日本に帰ろうとするのは誘拐に当たするため、注意が必要です。子どもの養育及び監護義務について正しい認識を持つことも重要となります。

詳しくは、P6

ビジネス法務から家庭法まで法律分野を幅広くカバー

Ainsworth Albright Lawyers
エインズワース・オルブライト法律事務所

Q ワーキング・ホリデーから学生ビザにして3年間シドニーに滞在しています。永住権獲得を目指していますが、どのような方法がありますか。

A 2020年にQLD州北部の地域に特化した「Designated Area Migration Agreement (FNQ DAMA)」と呼ばれる協定がオーストラリア政府とケアンズ地域の間で結ばれました。ビザ申請者にとっては、アドバンテージが高く、同地域に所在している雇用主にとっても、比較的容易にスポンサーになることができます。

詳しくは、P7

多言語に対応する移民法のスペシャリスト

Lanza Legal Pty Ltd
ランザ・リーガル

エインズワース・オルブライト法律事務所

民商事案件から刑事事件まで幅広く手掛ける国際総合法律事務所であるエインズワース・オルブライト法律事務所。総合的な法律助言を行う同社で代表弁護士を務める占部英高氏に、同所の強みや、自身のバックグラウンドを生かした得意分野、法務を執り行う中で心掛けている点、今後の展望などについて話を伺った。

相談者と共闘するパートナーとして質の高いリーガル・サービスを提供

—特に得意とする分野や、他の法律事務所にはない強みはどのような点ですか。

弊所の強みは、何よりも「豊富な法律知識と実績」、「交渉力」、そして「丁寧な対応」であると考えています。得意とする分野はいくつかありますが、会社設立、事業承継、企業法務、雇用・労務関係、国際商取引、移民法・ビザ申請、国際離婚、遺言と相続、訴訟調停法務を中心に、涉外案件全般に力を入れて参りました。これまでも、訴訟での裁判書類やビザの申請書類の作成から、商取引や紛争中の相手方との交渉まで、説得力ある交渉を行うことで、数多くの法律問題を解決に導くことができました。

オーストラリア全域及び日本や海外在住の日本人の方々からも数多くの相談を頂いており、その多くが日豪両国に関連する問題を抱えています。そうした相談で最善の結果を導くためには、法知識はもとより、日豪両国の法制度や社会の慣習、更には日本人とオーストラリア人それぞれに特有な文化的背景を踏まえたコミュニケーション能力が不可欠です。どのように伝えれば相手側当事者を説得しやすいのか、交渉がスムーズに進むのかを念頭に、日本語と英語の両言語を駆使し、難解な交渉に当たっています。私は、父親の駐在によりシドニーで生まれ、日豪双方の文化を背景に育ち、両国で法律を学んで参りました。日豪の両方の側面を併せ持つことで、依頼者には丁寧な説明を重ね、日本の細やかなサービスを提供する一方で、時に力強い交渉を行うなど、常に依頼者に喜んで頂ける結果を提供できる法律事務所であり続けたいと思っています。

—ご自身のバックグラウンドを生かし、弁護士としてどのようなアドバイスを行っていますか。

私は高校を卒業後、長年生まれ育ったシドニーを離れ日本の大学の法学部に進学し、国際比較法を専攻しました。大学卒業と共に、当時、積極的に海外事業を展開していた日本の電機通信機器の会社に就職しました。入社2年目からアメリカで実務研修を受けた後、オランダとイギリスで合計約2年間の駐在を経て、シドニーに現地の代表取締役として着任。オーストラリアでの最初の任務は、シドニーとメルボルンで別会社として経営していた自動車事業と光ファイバー通信事業を統合し、メルボルンを拠点に会社を1社に集約することでした。

特に、オーストラリアの事業統合を通して、当



代表弁護士の占部英高氏

時分離独立していた2社それぞれの事業内容の整理、それに伴う事業提携契約の見直し、会社再編の手続きに伴うコンプライアンス、日本の本社を含めた海外のステークホルダーとの連携と調整業務、更には外部の専門家の方々との連携に明け暮れる日々を送っていました。今は弁護士として、日系企業または個人事業主の皆様へ会社経営や事業経営で欠かせない契約書の作成とそのための交渉、雇用労務の相談、行政手続きから各種コンプライアンスまで、企業法務を全面的にサポートさせて頂いています。常に企業経営の現場に立つ皆様の視点に立ちながらも、法律実務の専門家であってこそ提案できるソリューション型のアドバイスをするように心掛けています。

—在豪日本人のサポートを行う中で、家族法や移民法関連ではどのような相談が多く寄せられますか。

家族法においては、婚姻生活が破綻し別居・離婚となり夫婦間に子どもがいた場合に、どちらの親と一緒に住むのかという点が最大の争点となります。特に日本人以外の配偶者と国際結婚をされていて、オーストラリアでの婚姻生活が破綻し、相手方配偶者の承諾を得ずに子どもを連れて日本に帰ろうとすることは誘拐に当たするため、注意を喚起しており、更に子どもの養育及び監護義務について正しい認識を持って頂くよう、アドバイスを提供しています。近年、日本人同士の夫婦で婚姻生活が破綻し、日本とオーストラリ

アのどちらで離婚手続きを行う方が好ましいか、という相談も多く頂いています。また、移民法案件で個人からの相談が多いのは、パートナー・ビザの申請になります。真に婚姻関係もしくは事実婚姻関係を形成していることを証明できることがパートナー・ビザの取得には欠かせません。この分野での豊富な知識と経験を生かし、徹底して担当審査官が納得する申請書類の作成にこだわり、申請をサポートします。

—今後の展望をお聞かせください。

弊所では、皆様に信頼される良きパートナーとして常に成長し続け、クライアントと共に闘い、依頼者にとって最善の結果を提供できる法律事務所でありたいと考えています。そのためには、デジタル化が急速に進むグローバル社会において、迅速かつ的確に皆様のニーズにお応えできるよう、IT環境を強化し、海外各国の専門家の方々とも更なる連携を図り、遠隔にいらっしゃる依頼者の方にも、充実した質の高いリーガル・サービスをタイムリーに提供して参ります。そうすることで、1社でも多くの企業が、また1人でも多くの人が、普段なじみの薄い難解な法律のハードルを乗り越えて、オーストラリアで次の新たな一歩を踏み出せるように、全力で皆様の活躍と幸せを応援いたします。

<事業内容>

国際総合法律事務所として、民商事案件から刑事事件まで幅広い法律分野に携わり、実績と経験豊富な弁護士がクライアントの「最善」と「安心」を迅速な対応でサポート。徹底したコスト・パフォーマンスと安心な料金システムで法人、個人に向けた法律助言を行っている。

AINSWORTH ALBRIGHT LAWYERS エインズワース・オルブライト法律事務所

Ainsworth Albright Lawyers
<Sydney Office> ●住所: Level 29, Chifley Tower, 2 Chifley Sq., Sydney NSW 2000 ●Tel: 02-8806-1358 <Melbourne Office> ●住所: Level 13, 200 Queen St., Melbourne VIC 3000 ●Tel: 03-8600-6960 ●Email: info@ainsworthalbright.com ●Web: www.ainsworthalbright.com



Lanza Legal Pty Ltd

移民法を専門とし、家族法、刑法、契約法、商事問題、調停・仲裁など多岐にわたる法律分野に携わりクライアントをサポートする「Lanza Legal Pty Ltd」。ケアンズに所在し、多言語に対応して移民ビザに関する案件を多く手掛けている理由や、強み、在豪日本人から寄せられる相談へのアドバイスなどについて、同所の担当者に話を伺った。

移民法のスペシャリストとしてクライアントをサポート

—弁護士兼マイグレーション・スペシャリストであるフランク・ランザ氏が創立したため、移民ビザに関する案件に強く、ケアンズの日系コミュニティーにも精通していると伺いました。

23歳の時にイタリアからオーストラリアに移住したフランクは、43歳でQUTロー・スクールを卒業し、ケアンズで法廷弁護士として人身傷害、家族、犯罪、労使関係、移民などの法律分野に従事し、弊所を開業しました。オーストラリア国内で認定された数少ない移民法の専門家「Accredited Immigration Law Specialist」で「Migration Institute of Australia」のメンバーであることに加え、全国的に認定された調停人及び仲裁人 (Mediator and Arbitrator) です。現在、弊所のシニア・リーガル・アドバイザーを務め、地元の留学生のための学校「Cairns College of English and Business」の創設者でもあります。フランクは、ケアンズ日本人会と長きにわたる関係を築き、ここ数年はケアンズ盆踊り大会への協賛も継続して行っています。

弊所には、日本人ソリシター (事務弁護士) である栗原拓も在籍しており、日本語によるビザや法律関係のアドバイスを提供しています。他にも多言語が堪能なソリシターやリーガル・アシスタントがいて、イタリア語、フランス語、インドネシア語、チェコ語、スペイン語に対応可能です。

—在豪日本人への移民ビザ関連の案件については、どのような相談が多く寄せられますか。

学生ビザから永住権を目指す個人の相談から、パートナー・ビザやペアレント・ビザなど家族ビザの相談、日本人のビジネス・オーナーからスポンサーに関する相談までさまざまです。また、既に永住権を取得された人の不動産売買やビジネス売買に伴う不動産譲渡手続き、商業リース、ケアンズ・カウンスルや、QLD政府から取得する必要があるフード・ビジネス・ライセンスや酒類販売のライセンスなどリーガル・サービスも行っています。家族法に関しては、離婚手続きや裁判所から同意命令取得までのリーガル・サービス、遺言書作成サポート、プロベート (Probate) と呼ばれる裁判所が関与する相続手続きなども手掛けています。

—ワーキング・ホリデーや学生ビザから永住権を目指す方々には、弁護士としてどのようなアドバイスをしていますか。



Lanza Legalのフランク・ランザ氏 (左) と栗原拓氏 (右)

2019年11月以降、ケアンズなど地方に特化した永住ビザ (RSMS) 申請が不可能となった後、ケアンズに滞在して勉強し、その後スポンサーを探して永住ビザを申請するといった流れがなくなっていました。しかし2020年に新しく、QLD州北部の地域に特化した「Designated Area Migration Agreement (FNQ DAMA)」という協定がオーストラリア政府とケアンズ地域の間で結ばれました。FNQ DAMAは、多くのテンポラリー・ビザ保持者がケアンズ地域に留まるよう、そして雇用促進、地方活性化を高めることを念頭に置かれた協定となります。

FNQ DAMAを利用し、雇用ビザ (482ビザや494ビザなど) の申請が可能ですが、通常の雇用ビザと違い、申請ポジションによっては英語力、スキル、職歴、学歴などの要件が比較的ゆるく、また年齢に関しても、ほとんどの申請ポジションの上限が55歳となっています。ビザ申請者にとっては、かなりアドバンテージ、メリットが高く、また同地域に所在している雇用主にとっても、比較的容易にスポンサーになることができるため、弊社でも2020年以降、数多くの申請をサポートしています。

また、FNQ DAMAは、ほとんどの申請ポジションに「Permanent Pathway」があるため、ビザが発行されてから3年間雇用され続けた後、永住ビザの申請が可能となります。FNQ DAMAを利用してダイレクトに永住ビザを申請することはできませんが、通常の雇用ビザより、いろいろな面でメリットがあります。比較的早く永住ビザ申請が可能になるという面で、弊社でも、数多くの申請代行を手がけ、現在も多くの人が申請を検討しています。

—オンラインでの相談や書面のやりとりはEメールなど、遠隔にも対応していると伺いました。

ビザに関する相談については、基本的には弊所 (ケアンズ) までお越し頂くこととなりますが、同地域にお住まいでない場合は、Eメール (taku@lanzalegal.com.au) でご連絡ください。相談の内容を具体的に明記し、英文のレジメを添付していただければ、何らかのビザ申請が将来的に可能であるかどうか初期査定を行います。ここまでは無料となります。その後、SkypeもしくはZoomでビデオ・ミーティングを行いますが、ここからは有料となります。最終的に弊所経由でビザ申請される場合は、相談料を代行申請費から差し引かせて頂きます。お気軽にご相談ください。

—最後に、法務を執り行う中で心掛けていること、今後の展望についてお聞かせください。

当たり前のことですが、あくまでも、それぞれの法律に沿った中で、クライアントが最善の利益を生むことができるよう努めることです。弊所のクライアントは、日本を含め、オーストラリア、東南アジア、中国、韓国、ヨーロッパ、南米などあらゆる国籍の人がいます。さまざまな国籍の人が最終的に永住ビザを取得し、その後オーストラリア国内で活躍されています。今後も、弊所経由でビザを取得された方々がオーストラリアで楽しく生活し、活躍されるのを楽しみにしています。

<事業内容>

移民法、家族法、刑法、契約法、商事問題、調停・仲裁などさまざまな法律分野に携わりクライアントを支援。日本語やイタリア語、フランス語など多言語が堪能なソリシターやリーガル・アシスタントが在籍し、多様なスキルと資格を備えて幅広いサービスを提供している。

富蘭久
LANZA LEGAL
PTY LTD

Lanza Legal Pty Ltd
●住所: Level 2, Travel Town, 21 Lake St., Cairns QLD 4870 ●Tel: 07-4031-6676 ●Email: taku@lanzalegal.com.au ●Web: www.lanzalegal.com.au/



Japanese Community News

Japanaroo 2022、シドニー各地で大盛況 「日本」をシドニーから発信



5000人以上を上る来場者でにぎわったJAPAN EXPO 2022



3日間にわたり開催された盆栽展



チャッツウッドで行われた日本祭り

官民一体で日本の文化や魅力を発信するイベント「Japanaroo 2022」が8～10月にかけて開催された。同イベントの開催は昨年に続き2回目となる。その一環として9月3日にシドニー大学で行われた、日本の食・観光・文化の祭典「JAPAN EXPO 2022」では、オーストラリア国内を始め、日本から多くの関係者が訪れ日本の物産や観光を紹介するブースを出展。会場では30以上の企業と団体による出展やプレゼンテーションに加え、生け花や折り紙などのワークショップが実施され、約5000人が訪れた。

同イベント終了後には、J Culture主催、豪州かりゆし会協力の下、シドニー沖縄県人会が中心となり沖縄フェスティバルが開催された。イベントの冒頭、玉城デニー沖縄県知

事からの祝辞が代読され、パフォーマンスがスタート。沖縄からスペシャル・ゲストとして、城間アルベルト氏及び亀井美音氏を迎え、沖縄舞踊や三線、エイサーなど、盛りだくさんのプログラムとなり、300人を超える観客を魅了した。

また、9月9～11日にはシドニーのロイヤル・ボタニック・ガーデンで、シドニー盆栽会主催による盆栽展が開催。10日に行われたオープニング・セレモニーには、山上信吾・駐キャンベラ日本国大使、紀谷昌彦・在シドニー日本国総領事を始め、ロイヤル・ボタニック・ガーデン・シドニーからジョン・シーモン氏ら多くのゲストが参列した。9月10日には、「Matsuri Japan Festival in Chatswood 2022」が行われ、多くの来場者が足を運ぶなど各地で盛り上がりを見せた。

「日本から世界の顧客をつかめ」

作野善教氏の著書「クロスカルチャー・マーケティング」発刊

シドニーのマーケティング・カンパニーdoq®創業者であり、グループ・マネージング・ディレクター作野善教氏著作の「クロスカルチャー・マーケティング 日本から世界中の顧客をつかむ方法」（宣伝会議）が11月中旬に発刊される。

外国人ほか多様な文化的背景を持つ人の購買・使用を念頭に置いたマーケティングで、世界の顧客をつかむ。国内市場の成熟が進む中、日・米・豪で企業のマーケティングを支援してきた筆者による、これからの日本企業への処方箋として、事業開発からチーム・ビルディング、クリエイティブ、メディア、SNS活用まで、世界市場を目指す企業のための方法論を分かりやすく伝える書籍だ。

日本人による日本人のためのマーケティングはすでに限界。海外の消費者や国内に住む外国人、訪日旅行者を見据えることで、成長の可能性は何倍にも広がる。そのために必要な「クロスカルチャー・マーケティング」の考え方や、また組織づくりからリーダーシップ、市場・顧客分析、クリエイティ



作野善教氏初となる書籍

ブ、仕事の進め方などについて解説されている。

doq®は2021年NSW州エキスポ・アワードのクリエイティブ産業部門で最優秀企業賞を獲得など受賞多数。日本発ブランドを世界中の消費者に訴求する「クロスカルチャー・マーケティング」の重要性を唱える。

同書は、日本全国の有力書店及びオンライン書店で購入可能だ。

doq®5年連続でNSW Awardsファイナリストに

シドニーと東京を拠点に日系企業や関連団体に、オセアニア地域におけるクロスカルチャー・マーケティング・サービスを提供する「doq Pty Ltd (以下、doq®)」は、10月12日にシドニー・タウン・ホールで開催された「Premier's NSW Export Awards」の授賞式でプロフェッショナル・サービス部門のファイナリストに選出された。

NSW州とオーストラリア輸出業協会が主催する同アワードは、国際市場で功績を果たしたNSW州の企業



授賞式に参加するdoq®メンバー

を表彰するもので、doq®は昨年のクリエイティブ産業部門最優秀企業賞の受賞に加え、5年連続のファイナリスト選出の快挙となった。

SBSラジオ日本語放送見どころ

SBSラジオ日本語放送は毎週、火、木、土曜日の午後10～11時に番組を放送している。シドニー市内からはAMラジオ1107kHzにチューンを合わせる方法と、デジタル・テレビのデジタル・ラジオ「SBSRadio1」を選択する方法で聞くことができる。

9月は、ストリート・ダンス大会「Red Bull Dance Your Style」でオーストラリアン・チャンピオンに輝いたK.O.こと山田航さんや、ホテルやレストランが載っていない

新スタイルの旅行ガイド本「大学的オーストラリアガイド・こだわりの歩き方」をまとめた、名古屋商科大学国際学部の鎌田真弓教授のインタビューなどを放送。ウェブサイトでもバックナンバーの視聴ができる。

また、11月20日開幕のサッカー男子FIFAワールドカップに合わせた日豪サッカーの日本語ポッドキャストも配信。

■SBSラジオ日本語放送

Email: Japanese.program@sbs.com.au

Web: www.sbs.com.au/Japanese

読書好き
集まれ!



協力：オーストラリア紀伊国屋書店
(Level 2, The Galleries, 500 George St., Sydney)

本好きにとって、トレンドに取り残されてしまうのはつらいところ。本連載では、シドニーCBDに店を構え、KINOと親しまれるオーストラリア紀伊国屋書店協力の下、トレンド・キーワードと共に読み逃さない話題の3冊と、日本のトレンドをキャッチするための最新ランキングをご紹介します。

本格的な夏に向かい、皆様いかがお過ごしでしょうか？ 2023年を明るく良い年にできるように年末も気を引き締めて過ごしていきたいですね。とは言え、これからのフェスティバル・シーズンに向けていろいろなパーティーなどに参加する

機会も増えてくるはず。そこでちょっとした手土産に手作りスイーツなどを持参したら人気者間違いなしですね。今回ご紹介したい本は、どれも可愛くて見た目も映えそうなスイーツ・レシピ満載のレシピブックです。

今、売れている本は？

👑ベストセラー・ランキング (2022年9月1日～7日)

■文庫ベストセラー

1	名乗らじ 空也十番勝負 (八)	佐伯泰英	文藝春秋
2	大名倒産 (上)	浅田次郎	文藝春秋
3	大名倒産 (下)	浅田次郎	文藝春秋
4	生命の賭奪者 天久鷹央の事件カルテ	知念実希人	新潮社
5	すずめの戸締まり	新海誠	KADOKAWA

■新書ベストセラー

1	22世紀の民主主義	成田悠輔	新潮社
2	ほんとうの定年後	坂本貴志	幻冬舎
3	80歳の壁	和田秀樹	祥伝社
4	ストレス脳	アンデシュ・ハンセン/久山葉子	新潮社
5	会話を哲学する コミュニケーションとマニピュレーション	三木那由他	岩波書店



あつという間に2022年も終わりに近づいてきました。だいが規制も緩和され日常に戻りつつありますが、皆さんにとってはどのような1年でしたか。来年が更に素敵な年となることを祈りつつ、クリスマスなどイベント盛りだくさんの季節を楽しみましょう。今回は見た目も鮮やかな手作りスイーツの特集でした。普段はなかなかトライできない特別なレシピを、この機会に挑戦してみるのも楽しい思い出になるのではないのでしょうか。

ランキングからPick up!

すずめの戸締まり
新海誠/KADOKAWA



九州の港町で叔母と暮らす17歳の少女、岩戸鈴芽。ある日の登校中、美しい青年とすれ違った鈴芽は、「扉を探してるんだ」という彼を追って山中の廃墟へと辿り着く。しかしそこにあったのは、崩壊から取り残されたように、ぼつんとたたずむ古ぼけた白い扉だけ。何かに引き寄せられるように、鈴芽はその扉に手を伸ばすが……。

今週のトレンド・キーワード「スイーツ・レシピ」

おうちでおいしい、ほめられお菓子が作れる!

パティシエレシピのかわいいお菓子
しいじー

KADOKAWA (価格: A\$35.73<会員価格: A\$ 32.16>)



クッキーやパウンド・ケーキ、カップ・ケーキ、スコーンから、話題のバター・クリーム・ケーキ「セニール・ケーキ」まで、パティシエが教えてくれる、可愛くて作りたくなるレシピがいっぱい。味やデコレーションの種類が豊富に掲載されているので、この1冊でパティスリーのようなお菓子作りが楽しめる。おうちでおいしい、ほめられお菓子に挑戦!

心を優しく包む40のレシピ

世界が寝静まったら 真夜中のお菓子レシピ
Soyon

KADOKAWA (価格: A\$34.60<会員価格: A\$31.14>)



本書はSNSで人気のSoyon初のお菓子レシピ。絵本から飛び出したような可愛くて、美しいお菓子のレシピ。そして、眠れない夜に心を暖めてくれるメッセージ。今夜も一緒にお菓子作りを……。 お菓子作り初心者でも困らないように、細かくレシピが書かれている。1つひとつ、ゆっくり作ればおいしく出来る上がる。

可愛いお花しぼりの作り方

あんこのお花練習帖
末廣由香里

バルコ (価格: A\$40.13<会員価格: A\$36.12>)



「えっ!? この花って本物?」と、生け花と見紛う見ただ目でSNSを中心に話題の、白餡でできた“あんこのお花”の作り方が1冊に。基礎知識や20種類の花のしぼり方を丁寧に解説。しぼった花を可愛く飾るのに最適な箱詰めのおはぎBOXや、おはぎ(15種)の作り方、誕生日向けのホール・ケーキなどのレシピも掲載。

みんなの将来の  聞かせて下さい!

フォレスト日本語学校

シドニーで日本語学習をしている日本語学校の子どもたちに「将来の夢」を聞き記録を残していく企画。今回は、「フォレスト日本語学校」のクロコダイルクラス (Year 5, 6) の生徒11人に将来の夢をお寄せ頂きました!



- 世界中を旅行したい
- 世界の役に立つことをすること
- わたしは、建築家になりたいです
- 赤ちゃんのお医者さんになりたい
- マインクラフトのユーチューバー
- ファッションデザイナー

- 八幡美沙
- リー知磨
- ペパバ・モアナ美湖
- 川西純平
- 前川開
- 浦和春衣

- 動物のお医者さんになりたいです
- 鳥類学者
- プロの水泳選手 (競泳選手) になりたい
- 将来の夢は、サッカー選手になることです
- 数学者になりたいです

- ウィリアムズ真理
- コンドン飛吾
- 本山みずほ
- スマイス・レニー
- バドニー・アリア

4788SYDN

充実した環境で身につくバイリンガル教育

日本人学級と国際学級を併設

Two curriculums. One school.

Japanese Curriculum
Y1-9

NSW Curriculum
K-Y6



JAPANESE INTERNATIONAL SCHOOL
シドニー日本人国際学校

オンライン説明会
日本語・英語で毎月開催

Scan me

プライベートツアー、
オンライン説明会の
ご予約はこちらから



2023年キンディ学年アプリケーション間もなく締切



BBK (僕、40代半ば)



MEG (妻、年齢不詳)



カイト (兄、2歳)



アリス (妹、6カ月)



アビー (雌猫、15歳くらい)

新宿の帝王、ブルー・マウンテンズの洗礼を浴びるの巻

「それ」は思いもよらぬタイミングで訪れた。前回、予測できぬタイミングで「それ」が訪れ、のびきならない状況に陥ったのはいつだったか。記憶の糸を手繰り寄せる。母親を助手席に乗せ、冷や汗をかきながらハンドルを握っていたシーンを思い出す。かれこれ20年近く前のことだ。東京都内。当時まだ存命だった祖母を見舞った帰り。僕は環状七号線を甲州街道方面に向けて車を飛ばしており、その時は地の利に恵まれ運良く命拾いした。「それ」は突如「災厄」へと変貌する。その時は運を天に任せるほかない。

「新宿の帝王」時代

オーストラリア最大の都市、シドニーから約2時間、世界遺産・ブルー・マウンテンズを代表する町・カトウンバで事件は起きた。

「それ」とは、つまり「便秘」のことだ。これまでの人生で「便秘」に悩んだことはほぼないが、一方でお通じが良すぎ、食後、急な「ハラिता」に襲われることが日常茶飯事だ。特に、その軍勢がツワモノぞろいの場合、それこそ3分後にはトイレにいないと敗北する可能性が高い。食事、水分補給のタイミングなど、僕の40数年にわたる人生は「それ」との戦いの連続だったと言っても過言ではない。

唐突に訪れ、破壊力抜群のそれを、我が家では「爆弾」と呼んでいる。移動中「MEG(妻)、急にごめん。ちょっと寄りたい所あるんだけど」と言えば、「はいはい、爆弾ね」とナチュラルに会話で活用されている。

余談だが、中高時代、僕は新宿の学校に通っていた。「ダンジョン」「地下迷宮」、巷では構造の複雑さゆえそのように表現される新宿駅は僕にとっては勝手知ったる庭。そのため、当時、駅構内はもちろん周辺エリアを含め、あらゆる場所のトイレを僕は把握していた。

トイレ自体の位置はもちろん、ペーパーの交換頻度、清潔さなど、新宿の周辺トイレ事情に精通、問われれば多角的な観点から情報を提供できるため、仲間内で「新宿の帝王」と呼ばれていた。栄光の時代だった。だがその称号は、今や全く役に立たない。新宿で天下を取った気になっていた僕は井の中の蛙であった。

リミットは3分、爆弾処理は速やかに

スタートは遅めのランチを取ったベトナム料理店(1)。食後、トイレのために席を立つ。レストラン近くのショッピング・センターに車を停めていたため、その後の移動の効率性を考え、その建物地下にあるトイレに向かうことにした。

「MEG、あとから駐車場合流で」「ついでにカイトも連れてってー」「オッケー。よしカイト、パパと散歩しよう」右に左に蛇行する息子を追いかけながらの移

動でショッピング・センターまでは5分ほど(2)。トラベレーターで地階へ降り、通路に足を踏み入れると目の前に鉄格子の扉が立ちふさがる。掛けられた看板には「現在、トイレは利用できません」。清掃中というわけでもなく理由は不明だが、通路が塞がれている以上どうしようもない。

地上に出て周りを見渡すと、少し遠方にKマートの看板が見えた(3)。よし、あそこだ。

カイトの手を引きながらKマートに向かう道すがら、秒ごとに下腹部への違和感が増し、それはいつか強い火種となってきていた。何ということのないはずのトイレ行脚に暗雲が立ち込め始める。何より今はカイトが一緒だ。自由には動けない。しかし、これが「爆弾」だとしたら、タイム・リミットは3分。僕はスイッチを切り替え、カイトを抱き抱えて走り始めた。

Kマートに駆け込む。店の奥にトイレがありそうな通路を発見し近付くと、扉には「スタッフ・オンリー」の文字。火種は今や完全な「爆弾」へと進化を遂げていた。やむを得まい。思い切って扉を押すが開かない。一刻を争う自体、店を飛び出て今度は道を挟んだ先にある大型のペットショップへ(4)。スタッフが「大丈夫か?」と声を掛けてくる。15キロ近いカイトを抱っこしながらの疾走。片腕では支えきれず、両手でお姫様抱っこ。全身汗だく。そこには大量の冷や汗も交じっている。

スタッフは何かしらの緊急事態を察知したのだろう。トイレの場所を問う僕にこう叫ぶ。

「扉を右に出ろ!」

建物を飛び出し指示通り右に出る。幅の広いまっすぐと伸びる坂道に到着。あるのは駐車場への入り口。そして通りの反対側は平屋が立ち並ぶ住宅街。トイレなどどこにも見当たらない。

開かずの扉

もはやここまで……。腹はもう限界を迎えていた。僕はいつしか住宅街の中の空き地や、人目につかぬ木陰を探し始めていた。ついに、最終ケツ断をくだす時が来たのかもしれない(地図上フラグ)。

しかしだ。いくら緊急事態とはいえ「父が屋外で○○」。それが彼の将来に影響を及ぼさないだろうか。もう少しだけ頑張れないか、自分。

3分のカラータイマーはとっくに鳴っており、従来であればここで試合終了。だが、ここにきてカイトの存在が力を与えてくれたのか、僕のお腹の我慢力は突如、限界突破を果たした。

この坂の先に何かないか。腕の中のカイトのポジションを整え、ゆっくりと歩みを進める。腕の感覚はもうない。息は上がり、肺は悲鳴を上げている。

建物の外周に沿って坂を登っていくと右手にカルチャー・センターのような建物が姿を表した。アート作品の展示、カフェ、更に図書館らしき施設。間違いなくここにはトイレがある。中をのぞくとホールの奥にトイレマークが見えた。



スタート地点からゴールまで大人の足で順当に歩いても9分の距離であった(グーグル・マップ調べ)

油断は禁物。1ミリたりとも筋肉を緩めよう細心の注意を払いながら、子どもと入れるペアレックス・ルームの扉に手を掛けるが、セキュリティのためロックされている。ペアレックス・ルームでなくとも良い。一般の男子トイレへと駆け込む。すると1つしかない個室は使用中。神様は本当に意地悪だ。騒ぐカイトをなだめながら待ち続けるが、「中の人」は一向に出てこない。明らかに待ち人の存在には気付いていながら、全く動く気配がないということは、そこに何かしらの意図が介在していると考えべきだ。事情は全くわからないが(室内をめちゃめちゃ汚してしまっているとか)、外に誰かがいる間は出てこない。そう仮説を立て、待つのを諦めレセプションに「ペアレックス・ルーム」の鍵をもらいに行くことにした。

ここで断られる最悪のシナリオも頭をよぎったが、満身創痕の僕らの姿に緊急性を感じたのか、急いで鍵を渡してくれた。かくして僕らは「最後のカギ」をゲットし、ミッションをコンプリートしたのである。

カイトと共にゆっくりと駐車場までの道に戻るとMEGが心配して待っていた。

「こんな長い時間どこで何をやってたの?」僕は笑みを浮かべながらこう返す。

「長い話になるけどいいかい?」僕は、初めて息子と共に乗り越えた「それ」との戦いの顛末をゆっくりと語り始めた。

空は茜色に染まり始めていた。

馬場一哉 (BBK)
 雑誌編集、ウェブ編集などの経歴を経て2011年来豪。14年1月から「Nichigo Press」編集長に。21年9月、同メディア・新運営会社「Nichigo Press Media Group」代表取締役社長に就任。バスケ、スキー、サーフィン、筋子を愛し、常にネタ探しに奔走する根っからの編集記者(だったが、現在は会社経営に追われている)。趣味ダイエット、特技リバウンド。料理、読書、晩酌好きのじいじ気質。二児の父

本来、筆者のつたない写真か、すばらしいカメラマンとのコラボでQLD州の風景を切り取ってきた当連載。今回は、趣向を変えて思わずうなりたくなる1枚と共にお届けする。

ブリスベンに春の到来を告げる風物詩として定着したリバーファイヤー。その一環として行われる多くの趣向の中でも、郊外の空軍基地から飛来するジェット戦闘機のアクロバットは大人気だ。

轟音と共に飛来する戦闘機が摩天楼の合間をすり抜ける、そんな非日常的な光景は、観覧者だけでなく、世のカメラマン諸氏にとっても絶好のシャッターチャンスとなる。

圧巻のこの1枚は世界を駆け巡った。豪州の航空ファンが集うFacebookページに取り上げられて瞬く間に拡散。「いいね！」は約10万件、シェアが約5万件とすさまじく“バズった”。そんな報道写真賞クラスの写真が、なぜ当連載で掲載できるかの答えはその撮影者にある。日豪プレスに長年多くの写真を提供してくれているブリスベン在住のNino Lo Giudiceこそ、この唯一無二とも言える瞬間を切り取った男なのだ。

10年前、日本人の奥さんから一眼レフをプレゼントされてから写真を始めたというニーノ。航空関連の仕事の傍らアマチュアとして活動していたが、リタイア後に写真熱が一気に加熱。ハイアマ、セミプロ、そして、今やプロカメラマンとして活躍するまでの成長を見せた。今回のこのすばらしい機会を捉えて、ニーノの功績をトリビュートしたいと思う。Well done, Nino! keep on good work, mate!!

畢生の1枚／リバーファイヤー Riverfire / Brisbane



Text by Taka Uematsu / Photo by Nino Lo Giudice

column
ビザ

豪州ビザ 最新事情



清水英樹

オーストラリアQLD州弁護士。在豪30年以上。地元大学卒業後、弁護士資格を取得。フェニックス・グループCEOとして傘下にあたる「フェニックス法律事務所」、ビザ移民コンサルティング「Goオーストラリア・ビザ・コンサルタンツ」、交通事故ならびに労災を専門に扱う「Injury & Accident Lawyers」を経営

491ビザーQLD地方地域の小事業主パスウェイ

サブクラス491ビザは州・準州地方地域のポイント制技術（暫定）ビザですが、QLD州には“491 Small business owners in regional Queensland”というパスウェイがあります。申請の条件は以下の通りです。

491ビザ申請の条件を満たしていること

- ・ポイント・テストで65ポイント以上の証明ができること
- ・指定の職種におけるスキル・アセスメントに合格していること
- ・最低限の英語力 (IELTS6.0) を証明できること
- ・45歳以下であること

QLD州政府の定める以下の条件を満たしていること

- ・移民局指定の職種リストに該当し得る職種が含まれていること
- ・フルタイム（週35時間以上）でビジネスを運営するための就労可能なビザを保持していること
- ・QLD州指定の地方地域に所在する既存のビジネスを購入していること
- ・最低10万豪ドルでビジネスを購入していること、または
- ・起業後、最低2年のビジネス運営ができていて、かつ、申請前12カ月の売上が20万豪ドル

以上であること

- ・ビジネスの保有100%であること
- ・申請前の6カ月間、実際にビジネスの運営をしていること（売り手への支払いを完済後から6カ月）
- ・オーストラリア国籍または永住者を週20時間以上で1人、または、週10時間以上で2人雇用していること
- ・規定以上の資金証明ができること

購入するビジネスは自宅兼であってはならず、その所在地で最低2年間、実際に運営されているビジネスの購入でなければいけません。フランチャイズの購入でもよしとされていますが、サブリースによる購入は認めないとされています。

ポイント・テスト、英語力、スキル・アセスメントなど幾つか越えなければいけないハードルがありますが、恐らく就労可能なビザを確保できるかどうかという点がネックになりそうです。

このビザは現在QLD州限定となっており、他州では適応されません。そして、QLD州政府における審査基準も非常に流動的であり、変更も多いため申請前にその時点での条件を確認する必要がありますので注意しましょう。

2022年豪州不動産市場を振り返る

日豪プレスの2022年最終発行号に寄せて、1年間のオーストラリアでの不動産市場の動向を振り返ってみることにしましょう。未曾有のパンデミックからの経済復興下、豪州不動産の移行を確認します。

社会の変化とその影響—記録的な賃貸空室率

まず、今年最大の特徴としては、2020～21年に社会生活に多大な影響を与えたコロナ禍からの脱却が社会的背景として挙げられるでしょう。

経済は停滞期からの復興状態が顕著になり、経済活動の正常化と共に深刻な人手不足や収入増の傾向も見られました。連邦・州等政府のさまざまな規制が緩和や撤廃されたことで、パンデミック前ほどではありませんが海外からの渡航者は戻りつつあり、人口も順調に増えています。

不動産業界では、昨年不動産価格が史上最大の上昇率を記録。22年には賃貸家賃が、コロナ禍でインパクトを受けた都心アパートなどを中心に、記録的に上昇するエリアもありました。また同時に、人口増加から空室率が急低下し、22年9月の全豪の空室率はついに1%以下となったことが発表されました。

この前代未聞の賃貸需要の増加は、賃貸者の物件の借り入れを困難にするだけでなく、競争による更なる家賃上昇という、賃貸者にとっては望ましくない結果をもたらしました。

不動産価格高騰に対する政府対応と施策

これらの賃貸空室率の低下は、既存住宅が高額過ぎて購入しにくいという社会状況を反映しているとも言えます。では豪州政府はその対応策をどのように考えているのでしょうか。

昨年の史上最大の不動産価格高騰を受け、豪州政府は今後の極端な価格の値上りを抑制するために、一旦、コロナ禍期間中に下げた法定金利を徐々に上げ、過熱する購入動向に水を差そうとしています。

この影響により、2年後には15%もの不動産価格の下落を予測する金融機関も存在しています。その効果予測的中するかどうかは、今後の需要と供給のバランス次第とも言えます。

また、不動産価格の上昇によって、初めての

自宅を購入しにくくなっている状況を是正するため、9年ぶりとなる労働党による連邦新政権は2023年1月16日から、「First Home Buyer Choice」という施策を導入するとしています。

「初めての自宅」として150万豪ドルまでの物件を購入する場合には、印紙税を購入時に一括で支払うか、Property Taxを支払うかを選択できるようになり、これまでに比べて購入者の選択肢が増えています。これらの有利な条件を利用して自宅購入を検討している社会層も急増中です。

インフレーションと不動産の緊密な関係性

不動産価格高騰の抑制を目標とした対応がされる中、更に深刻な供給側の事情もあります。インフレーションに伴う建築原材料費の値上がり、輸入機具・部材の入手困難、人件費の上昇、建築場所である地価の上昇です。

特に建築資材に関しては、戸建て住宅、マンション、事務所、工場、商業施設、物流施設などを建設する際に必要な木材、鋼材（鉄筋や鉄骨）など、主要な建設資材の価格が高騰したことにより、全体的な建設資材の物価が上昇傾向にあると言われています。

中でも木材は、米国での住宅用建築の増加が引き金となり、全世界的に需給が逼迫したことで価格が上昇しつつあると見られています。また鋼材は、世界的な需要の高まりを受け、原材料である鉄鉱石や原料炭の価格が上昇し、鉄筋や鉄骨などの価格高騰につながっています。

このような豪州国内外のさまざまな影響によって、今後新規に建築される住宅物件に関する費用の増加は避け難い状況であると言え、ディベロッパーやビルダーなど住宅製造企業の負担も増えています。

今後の不動産価格は上昇？ 下落？

今後の不動産価格の上昇につながる要因として挙げられるのは、以下の通りです。

- ・海外からの流入者による人口増加
- ・賃貸家賃高騰により「賃貸⇒購入」への移行のトレンド
- ・資材高騰による建築費用の増加
- ・インフレーションによる物価高

しかし、豪州政府が今後も法定金利を上昇すれば、市場の冷え込みや、投資家の買い控えなどが予測され、銀行発表のような価格の低下も見込まれます。そして、政府の施策によってファースト・ホームを購入する若い層や新移民にとって購入しやすい市場が広がれば、「手の届きやすいマイホーム購入者」が増えることも予測できます。

このように2022年の不動産市場は、賃貸者に厳しい一方、購入者には良いチャンスとなった年と言えます。法定金利は毎月第1火曜日の午後2時に発表されます。豪州の不動産市場の動向は引き続き、来年も目が離せない状況になりそうです。不動産にまつわるトラブルを避けるため専門家の意見をご参照下さい。

●賃貸物件空き室率

	Aug-22	Jul-22	Aug-21
全国	0.9%	0.9%	1.7%
主要都市合計	1.0%	1.0%	2.2%
地方合計	0.6%	0.6%	0.7%
シドニー	1.2%	1.3%	2.5%
メルボルン	1.3%	1.4%	3.6%
ブリスベン	0.6%	0.6%	1.3%
パース	0.4%	0.5%	0.7%
アデレード	0.3%	0.2%	0.6%
ホバート	0.5%	0.5%	0.4%
キャンベラ	1.0%	0.9%	1.0%
ダーウィン	0.6%	0.6%	0.7%

出典：DOMAIN RESEARCH (<https://www.domain.com.au/research/vacancy-rates-august-2022-1164176>)



鶴美枝

グローバル・インテリジェンス・マネージメント代表。創業2010年以来、豪州各地の優良不動産を厳選し、豪州及び日本在住のホーム・オーナー若しくは投資家の方々の購入をサポートし資産増幅、理想の住まいの確保に日々尽力中。日本と豪州にて法学部大学院卒業。豪州不動産フルライセンス保持



豪州不動産ならGIM 豊富な在庫と手厚いサポート

将来に向けて夢のマイホーム、資産形成を
じっくりGIMと考えてみませんか？

グローバル インテリジェンス マネージメント / GIM キャピタル プロフェッショナル株式会社
GIM代表 鶴美枝

本社住所：313/3, Spring St, Sydney NSW 2000
ノースドニー支社：100 Walker St, North Sydney NSW 2060
連絡先：英語総合 02-9235-2908 日本語直通 0421-458-081
E-mail: info@gimmanagement.com.au
Web: <https://gimmanagement.com.au> - お気軽にご相談ください -



第86回 法廷侮辱罪について

太平洋諸島のフィジーで、著名弁護士に法廷侮辱罪の容疑がかけられています。判事が誤って“injection”（注射）という言葉を使用してしまい、それを擲揄した弁護士が訴えられ法廷闘争にまで発展しているというお話です。

フィジーの現法務長官が、次期選挙でそのポジションを狙っている著名弁護士（私人）を法廷侮辱罪で訴えたことで争いが勃発しました。このケースは民主主義と司法の独立性、法支配の重要性と密接に関わっており、豪州弁護士連合会によって「豪州の司法行政にも影響を及ぼす可能性がある」と発表されているように、一連の法廷論争は豪州でも注目されています。

問題の発端となった“法廷侮辱罪”とは、例えば、裁判所員や判事に向かって大声で侮辱的な言葉を浴びせるなど、裁判所の権限、尊厳を故意に無視し、反抗的あるいは無礼な態度をとったことに対する罪です。政府は特定のルールを設けて、法廷侮辱罪となる具体的な行為を示しています。法廷侮辱罪で罰することは、裁判所が行う最も深刻な処置と考えられます。

もし裁判の進行が妨げられれば、特定のケースだけでなく世間一般的に、裁判所の役割、権限が害されることから、この罰則は司法行政を守るために存在します。司法制度は裁判所の独立、公平性の上に成り立っているため、その進行を妨げようとする者を深刻に罰する必要があるのです。

法廷侮辱罪につながる行為は、法廷内でも法廷外でも起こり得ます。例えば、法廷内で侮辱的な言葉を大声で叫ぶ、ジャーナリストが進行中のケースに関して法廷外で先入観や偏見のある記事を書く、など。また、裁判所命令の不服従も侮辱とみなされることがあります。公表が禁止されているにもかかわらず、裁判所が出した特定命令の詳細をブログに書いてしまう、などがその例です。その他には、裁判所に提出する書類を不正に作成するといった訴訟手続きの悪用も侮辱罪に問われることがあります。

司法制度の基盤につながる法廷侮辱罪の刑罰は厳しく、12カ月の懲役と／あるいは最高1万2,000豪ドルの罰金が科せられます。更には、判

事が懲役に関して「侮辱が消えるまで」といったように刑期を自由に決めて良いケースもあり、その場合、裁判所命令に従うまで、または裁判所に対して深く謝罪し、将来的に裁判所命令に従うことを約束するまで、となることが多いです。

裁判所は、裁判所やそこで働く人たちの尊厳を傷付けたり、裁判所の独立性を妨げたりする行為から守られるべきです。しかしこれは、裁判所が非難を受けるのを逃れられる、という意味ではありません。

もし裁判所が一般大衆の激しい怒りを買うような判決を下したとしたら？ 例えば強姦犯は懲役3カ月、一方で自転車泥棒は懲役3年、といった場合、メディアはそれに対する市民の怒りを報道してもいいことになっています。

偏見のない公平な裁判になるよう、出版・公開には十分に気を付けなければなりません。刑事事件の判決が出るまでの間、容疑はあくまでも“審理中”です。メディアによる特定情報の公開によって裁判の公平性が失われないう、容疑者の前科などの公開は禁止されています。

さて、話はもとに戻りますが、南国のビーチ、トロピカル・パラダイス、イージーゴーイングといったイメージのあるフィジーで、問題の法廷侮辱罪は一体どのような経緯で発生したのでしょうか。

今年2月、フィジーで最高レベルの法律事務所のトップ弁護士Naidu氏は、フィジー最高裁判所の判決文にスペル・ミスがあったこと（“injunction=強制命令”であるべき箇所が“injection=注射”になっていた）をFacebookに投稿しました。Naidu氏は“おそらく判事たちは、あらゆるコロナ・ワクチン接種キャンペーンをシャットアウトする必要があるのでは？ 差し止め命令の請求者が求めているのは、注射ではなく裁判所命令ですからね”とコメント。裁判所が犯した単純なスペル・ミス、タイプ・ミスを擲揄




したのでした。フィジー法務長官であるSayed-Khaiyaum氏はこれに対し、Naidu氏を法廷侮辱罪で訴えました。


ある意味、この法廷侮辱罪の一件は笑える話でもあるのですが……。しかし豪州は、最も重要な太平洋同盟諸国の1つであるフィジーでこうした問題が起きていることを懸念しています。裁判に法務長官が勝てばNaidu氏は投獄されるかもしれません。例え罰金刑で収まったとしても、11月に行われる政治選挙への立候補資格を喪失する可能性もあります。現法務長官Sayed-Khaiyaum氏の政治的敵対勢力がNaidu氏であり、過去数年間にわたって2人が互いを批判し合っている状況はよく知られています。

フィジーは、英国による約100年の植民地支配を経て1970年に独立しました。政治形態は豪州同様、ウェストミンスター・システムという議院内閣制を採用しています。

豪州弁護士連合会は、政府に対する批評・批判を消す方法の1つとして、この法廷侮辱罪が有効なのではないかという観点から、フィジーで起きているこの問題に注目しています。





ミッチェル・クラーク
MBA法律事務所共同経営者。QUT法学部1989年卒。豪州弁護士として30年の経験を持つ。QLD州法律協会認定の賠償請求関連法スペシャリスト。豪州法に関する日本企業のリーガル・アドバイザーも務める。高等裁判所での勝訴経験があるなど、多くの日本人案件をサポート



50 YEARS YOUNG
EST.1970

MBA 法律事務所 ジャパンリーガルサービス

人身傷害・賠償請求法のスペシャリスト

ミッチェル・クラーク
中瀬 恵子



オーストラリアで事故（交通事故や労災等）に遭い怪我をしまったら、ビザに関係なく、まずはMBA法律事務所法律事務所にご相談ください。

初回ご相談無料

日本語対応

「成功報酬制」+ 後払い

賠償請求に要する費用のお支払いは賠償金受領後、かつ賠償金額を超える自費負担のリスクがない「成功報酬制」を採用しています。1970年設立の当事務所は約半世紀に渡って信頼の厚いサービスを提供し続けています。事故案件の対応はパートナー弁護士のミッチェル・クラークが担当、日本語で承ります。人身傷害法の分野で最高レベルのスペシャリストとしてクィーンズランド州法律協会が認めた弁護士率いるチームが一丸となって不運にも被害に遭ってしまった方を全力でサポートします。

◇ 新オフィスに移転しました ◇
Robina Town Centre
Level 1, Shop 5003 Robina Town Centre
Robina QLD 4226
Tel: 07-5339-9688
Email: mbajapan@mba-lawyers.com.au
Web: www.mbalawyersjapan.com

14 NICHIGO PRESS | NOV & DEC 2022



ガマの穂先を直線的に、ガマの葉を曲線的に使用。ユニークな形状の花器から、ギガンチュームがゆったりと伸びています

第48回 開かれた世界に向かって

年末のごあいさつをさせて頂く時節柄となりました。1年の移り変わりの早さに驚いているのは、私だけでしょうか。2022年も終盤を迎えようとしています。

「壁を作っていないですか?」と、花をいけた作品に対して、何度か言われたことがあります。いけばな作品で壁を作るとは、空間をうまく利用せず奥行きが少ないことを指す場合があります。花器の形状で思うようにできないこともあります。いけばなは立体的な造形が美しいとされていますので、キャンパスに描く絵画とは違い、前後の広がりも大切な要素となります。

「いけばな作品を後ろ側からご覧になったことは

ありますか?」——。ほとんどの人の答えが「No」だと思いますが、美しい作品は後ろから眺めても良い表情を持ち合わせています。花本来の姿は正面だけでなくあらゆる角度から眺めても美しいのと同じです。後方までも手抜きなく仕上げておくと、どのような方向からでも見応えのある作品となります。

作品の正面に壁を作るような花材の入れ方は、奥行きに制限をかけてしまうかのように感じます。後方がどうなっているのだらうと、想像することの喜びを欠いてしまうようにも思います。少々大げさな言い方ですが、いけばなはそれほどに、空間を大切にしていると言っても過言ではありません。

今季の作品は、当初真っ直ぐに立てていたギガンチュームが「壁になっていますね」と、私が学んでいる家元研究科で指摘を受け、右斜め後ろに倒してみたものです。空間が広がり伸びやかな作品となりました。限界を感じさせるような奥行きのないいけ方をやめてみると、今まで感じたことのないような想像を超えた世界が広がってくるように思います。

国境が開き始め、いよいよ新しい年と新しい世界が幕を開けようとしています。2023年は全ての国々が平和で、実り多い1年となりますことをお祈りしております。本年もご愛読頂き、誠にありがとうございました。



PROFILE

さくのよしのり

doq®創業者・グループ・マネージング・ディレクター。米国広告代理店レオバーネットでAPAC及び吹米市場での経験を経て、2009年にdoq®を設立。NSW大学AGSMでMBA、Hyper Island SingaporeでDigital Media Managementの修士号を取得。移民創業者を称える「エスニック・ビジネスアワード」ファイナリスト、2021年NSW州エクスポート・アワード・クリエイティブ産業部門最優秀企業賞を獲得

PROFILE

おがたさだゆき

在オーストラリア日本国大使館・公邸料理人。佐賀県立唐津南高校卒業後、2014年4月にセルリアンタワー東急ホテルに入社。総料理長・福田順彦氏に師事。1年間のベーカーリー勤務を経て、メイン・キッチンでの宴会や婚礼の調理、その後ガーデン・キッチン「かるめら」にて経験を積む。2020年末より現職。「マイユ料理コンクール2019」金賞。「第一回エスコフィエヤングシェフコンクール」入賞

日豪の要人に料理を振る舞う 若き公邸料理人の挑戦

対談

作野善教

doq®代表

小形禎之

在オーストラリア日本国大使館、公邸料理人

日系のクロス・カルチャー・マーケティング会社doq®の創業者として数々のビジネス・シーンで活躍、現在は日豪プレスのチェア・パーソンも務める作野善教が、日豪関係のキー・パーソンとビジネスをテーマに対談を行う本連載。今回は、在オーストラリア日本国大使館で公邸料理人を務める小形禎之氏にご登場願った。

(撮影：Angela Elgiva、監修：馬場一哉)

作野：現在、キャンベラの日本大使館公邸料理人として活躍する小形さんですが、そもそも料理の世界でプロを目指したいと思われたきっかけは何だったのでしょうか。

小形：最初の記憶は幼稚園生の頃にさかのぼります。うちは両親共に教師だったのですが、母が夜勤の時には1つ上の姉と家事を分担していました。姉が洗濯をするのであれば私が料理を作るなど当番制でやっていたのですが、ある日、母親が忙しかった際に「これでお弁当を買ってね」ということとお金だけ置かれていたことがあって、自分で買い物をしてお弁当を作ってみたんです。すると母親に「めっちゃおいしかった」と褒められて。自分が作った料理を喜んで食べてもらえたことがとてもうれしくて、それをきっかけに将来料理人をやりたいと思うようになりました。その思いは高校を卒業し、進路を決めるまで一度も揺らぐことがありませんでした。

作野：物心ついた時から料理を作り、奉仕する喜びを理解し料理人になりたいと思われた。その思いは変わらず、今に至っているわけですね。

小形：ええ、だから僕にとって料理は天職だと思っています。

作野：日本での料理人としてキャリア形成において苦労されたことはございましたか。

小形：もちろん料理に自信はあったのですが、高校卒業後東急ホテルへと入社した際は、すぐに出鼻をくじられました。フレンチでは、食材をフランス語で呼ぶのですが最初はそれが全く分かりませんでした。また、フレンチの「型」を知らなかったのも、食材の扱い1つとっても苦労しました。また、料理以外に苦労したのは、社会人としての常識的な側面の欠如です。加えて、プロの料理人の世界では、先輩には口答えをすることはできませんし、かなり厳しく仕込まれました。ストレスが溜まって体調を崩したこともありましたが、キャリアが上がり、自分にも後輩ができていく中で、先輩に厳しく社会のノウハウを叩き込まれたことを良かったと思えるようになりました。それが今も、自分の血肉になっていると実感しています。

作野：日本で7年ほど鍛え上げられた後、若くして公邸料理人という大役に抜擢、オーストラリアに來られたわけですね。

小形：ええ、料理長からの推薦という形で話を頂いたのですが、コンクールでの優勝など、ちょうど経験に実績が伴ってきた時期でした。以前、1人

の先輩がワシントンに公邸料理人として行かれていたことも聞いていたので、そういった仕事の存在は知っていましたが、実際、自分に声が掛かった時はかなりびっくりしました。

作野：料理長の推薦を受けるほど、組織の中でも際立ったポテンシャルを持たれていたということですね。オーストラリアにお越しになられて、改めて気付かれた日本との違い、また日本で経験しておいて良かった点などあれば、お聞かせ願えますか。

小形：食文化の違いはもちろんですが、グルテン・フリーやビーガンなど、体質や食の嗜好に応じた多様なリクエストがある点は大きな違いだと感じました。日本でやっておいて良かったと思うことは、料理長の指導の元、しっかりとベースを身に付けることができていた点に尽きると思います。それがなければ、オーストラリアの方々のさまざまなニーズに合わせて新しいものを作るチャレンジにトライできないからです。

作野：基礎をしっかりと叩き込まれたおかげで、応用を効かせられているわけですね。

小形：そう思います。元々フレンチの料理人なので、日本食は覚えたてで大きいことは言えませんが、常に探究心を持って仕事に取り組んでいるの



@elgiva_photography

で、初めて作る料理でも回数を重ねるごとに料理の質は上がって来ていると感じます。

作野:なるほど。オーストラリアの食文化に触れている中で、特に驚かれたこと、感動したことなどはございましたか。

小形:やはり移民国家なので、日本に比べて本当にさまざまな国籍の料理がありますよね。そのレパートリーの多さはとても魅力的だと思いますし、日本ではあまりニーズのない、あるいは見掛けない食材などがスーパーに並んでいるのも面白いです。こんな食材があるんだと感動しましたね。

「おいしい」、その言葉を励みに

作野:小形さんが、公邸料理人として最もやりがいを感じるのとはどのような瞬間ですか。

小形:僕の料理の原点でもあるのですが、やはりゲストの方々の喜びを感じられる時ですね。僕は毎回「絶対これおいしいから食べてください」という気持ちで料理を提供させて頂いているので、お見送りの際に「おいしかった」「Good mealだった」と言われると本当にうれしいです。握手を求められたり、たまに「サインを下さい」なんておっしゃるゲストもいらっしゃって励みになります。そして中でも一番うれしかったのは、ある政府要人から後日、直筆の手紙が届いたことでした。「パーフェクトですばらしい夜だった」という内容でしたが、それを読んだ時に「頑張って作って本当に良

かった。自分の味は間違っていなかったのだな」と再確認できたし、本当にうれしかったです。

作野:先ほど料理の世界でプロを目指されたきっかけとしてお母さまに褒められたことを挙げておられましたが、公邸料理人という非常に難しいチャレンジをされている中でも、根本的には「おいしいと言って頂くこと」にやりがいを感じるのとは変わらないのですか。

小形:ええ、そのエスプリは変わらないです。

作野:一方で公邸料理人として苦勞されたことにはどのようなものがありましたか。

小形:苦勞したのはやはり赴任直後でした。オーストラリアの有名な食材、人気のある食材、調味料、全てが分からない状態だったので、最初は自転車でキャンベラ中を駆け回って食材を見ながら、食材の調達、ルートの確立に尽力しました。

作野:食材のリサーチなどで苦勞された分、小形さんの料理は和洋折衷など、いつも独創性に富んでいると感じます。

小形:ありがとうございます。最近では、ラム肉をベジマイトでマリネし、ソースにユーカリの香りのするフレーバーを入れたのですが、オーストラリア人のゲストに「ベジマイト使ってくれたの？ ありがとう」と声を掛けて頂きました。実は調理場には、マジックミラーになっている小窓があってそこからゲストを見ることができるのですが、どのような年齢層でどのような表情で会話をされているかなどを観察しながら「この人にはこういう味付け

が良いだろう」など想像して味を付けるようにしています。

作野:面白いですね。私はマーケティングのキャリアを20年以上積んできているのですが、お話を伺っていると、共通点を感じます。お客さまが何に価値を感じてくれるのかをきちんと理解しないことには、何をしても喜んで頂けないし、お金なんて払ってもらえない。価値があると思って頂けるものをしっかり理解し、その価値にコミットするサービス、あるいはプロダクトを提供することで私の仕事も成り立っています。公邸料理人の小形さんのお話にはマーケティングに通じるものがあると思います。小形さんのお仕事は、それこそ国家レベルの要人に対して料理を提供されるというものです。プレッシャーなどはございますか。

小形:大使から、政府関係者の間で料理の評価が高まっていて「次はいつ呼んでくれる？」という声が続々と届いていると聞き、恐ろしいなと思いました(笑)。評価を頂き始めているからこそ、常に自分にプレッシャーを与えなければなりませんし、この仕事の責任の重みを再認識させられています。

作野:料理人の世界において、オーストラリアが日本から学べること、あるいは日本からオーストラリアが学べること、両国がそれぞれ学べるポイントがあればぜひお考えをお聞かせください。

小形:オーストラリアからは考え方の柔軟性を学べます。日本食とのフュージョン料理を出すような



@elgiva_photography

ジュリア・ギラード・元豪州首相を招いた夕食会で実演を行う小形さん

レストランも多くあって、「え?」と思わされることもあります。中には奇抜ながら面白い発想の料理を出す店もありますよね。そのあたりの柔軟な発想はオーストラリアから学べる点だと思います。ただ、一方で柔軟な発想を実現に移す際には、やはり「型」を知っておく必要はあると思うんです。「型」を知らなければ「型破り」もできない。ですから、オーストラリア人が日本から学ぶべき点は、しっかりと料理のベースだと思います。日本食に限らず、フレンチ、中華、あらゆる「型」を知った上で初めて柔軟な発想も生かせるのではないかと思います。

作野:なるほど。だからこそ小形さんの料理にはいつも強い思いとメッセージを感じるのだと納得しました。気持ちに届く料理と出合う体験は、なかなかできるものではありません。強い気持ちと魂、そして「型」を持ってお仕事をしているからこそ成し得るものだと思います。

「料理は恋愛と似ている」

作野:在任中、達成されたい目標などはありますか。
小形:言葉は少し悪いかもしれませんが「周りにある他国の大使館の料理人」を凌駕し、「日本の大使館が一番おいしい」という評価を得たいと考えています。そのために、もう1段階ギアを上げたかったので、先日日本に帰国した際は10日間ほど集中的に修行をしました。更に東京の最新の料理に関し

てもアップデートして参りました。それらが更なる起爆剤になるのではないかと考えています。

作野:公邸料理人としての任期終了後、新たに挑戦されたいことはありますか。

小形:任期中に吸収した食文化や食材などの知識をしっかりと日本に持ち帰り、還元しなければならないと思いますし、後輩の指導や育成にも生かしていければと考えています。その過程の中で新たな挑戦が見えてくるかと思いますが、しっかりとキャリアを積んだ上でもう一度オーストラリアに挑戦したいと考えています。

作野:シドニーで小形さんの「おまかせコース」が食べられる日を楽しみにしております。さて、最後の質問になりますが小形さんにとって料理とは何でしょう?

小形:これを言うと引く人もいるかもしれませんが、僕は、料理は恋人だと思っているんです。せっかく作ってもうまいかず気持ちが沈んだり、「おいしかったよ」って言ってもらえてモチベーションがぐんと上がったり。その浮き沈みの感じは恋愛と似ているなと思います。

作野:若い小形さんならではの回答、私は好きです。私のようないい年の既婚者が言ってしまうと若干意味合いが変わってきてしまうかもしれませんが(笑)

小形:いえいえ(笑)。いずれにしても大切なのは愛情ですね。だから料理をする時は平常心でなければだめなんです。怒ると塩味が強くなります

から。ショウ・マスト・ゴー・オンじゃないですが、どんな時もショーマンでなければならないと思っています。

作野:私は年齢で人は判断しない方なのですが、小形さんのように20代半ばでここまで真剣に仕事に向き合っている人に出会う機会はなかなかないように思います。

小形:今の時代、「働き方改革」とか「パワハラ」とか、職場で一生懸命頑張ろうとするとそういったキーワードに遭遇しますが、僕は最終的には自分がどこまで行きたいのか、自分が何になりたいのか、そのために何が必要かを考えるようにしています。たとえ、そうとう厳しい職場であっても、それが必ずためになるのであれば挑戦心は消えませんがね。僕は公邸料理人としては、周りが追いつけないところまでいきたいと考えています。評価を頂けるようになってきてはいますが、その良い評価に甘んじることなく、これからも探究心を持って挑戦し続けたいと思います。

作野:本日はありがとうございます。

(9月8日、オンラインで。撮影は9月23日、大使公邸で)

取材当日の写真を盛り込んだインタビュー完全版は、リニューアルした「Nichigo Pressオンライン版」よりご覧ください。



ソル・ルウィット「親和性と共鳴」展 (2023年2月12日まで開催中)



Installation view of Sol LeWitt Wall drawing #955, Loopy Doopy (red and purple) 2000 in the John Kaldor Family Hall at the Art Gallery of New South Wales, first drawn by Paolo Arao, Nicole Awai, Hidemi Nomura, Jean Shin, Frankie Woodruff at the Whitney Museum of American Art, New York, November 2000; current installation drawn by Kit Bylett, Andrew Colbert, Troy Donaghy, Szymon Dorabalski, Gabriel Hurier, Rachel Levine, Owen Lewis, Nadia Odlum, Tim Silver, Alexis Wildman at the Art Gallery of New South Wales, August 2022
© Estate of Sol LeWitt, photo © Art Gallery of New South Wales

Art
Gallery
NSW

Art Gallery of NSW

ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館。常設展入場無料。本連載は美術館の日本語ボランティアガイドが担当。
「件名: Japanese Tour」でEメールでの日本語での問い合わせ可。Web: www.artgallery.nsw.gov.au
Email: volunteerg@ag.nsw.gov.au

ソル・ルウィット (Sol LeWitt) とオーストラリア中央砂漠の絵画との親和性を探り、彼の作品の音楽的共鳴をも明らかにする展覧会「ソル・ルウィット: 親和性と共鳴 (Affinities and Resonances)」が、NSW州立美術館で開催されています。

ソル・ルウィット (1928~2007年) は、「概念アート」という言葉を生み出した、20世紀アメリカ美術の中心的人物です。「アイデア」こそが作品であり、作ることは二の次である、という彼のコンセプトは画期的で、その思想は多くのアーティストに影響を与え続けています。

美術館に入ってすぐ右側、高さ3メートル、幅10メートルを超える壁全体に、鮮やかな赤と紫の帯が絡み合うように描かれた巨大な壁画「Wall drawing #955, Loopy Doopy (red and purple) 2000」は、1997年のベニス・ビエンナーレでルウィットが初めて出合ったオーストラリア中央砂漠の絵画が彼に与えた影響を示すものです。

本展は、ルウィットの作品をエミリー・カメ・ウングワレーとグロリア・タマーレ・ベティアレの絵画と対置して紹介し、異質な2つの芸術作品の視覚的対話を強調しています。

また、壁画「Loopy Doopy (red and purple)」に呼応して、アメリカとオーストラリア先住民ミュージシャンが共同開発した新しいジャンルの3つの音楽作品もお楽しみ頂けます。

本展覧会は入場無料、2023年2月12日まで開催しています。

column

学び

福島先生の
人生日々勉強



教育専門家: 福島摂子

教育相談及び、海外帰国子女指導を主に手掛ける。1992年に来豪。社会に奉仕する創造的な人間を育てることを使命とした私塾『福島塾』を開き、シドニーを中心に指導を行う。2005年より拠点を日本へ移し、広く国内外の教育指導を行い、オーストラリア在住者への情報提供やカウンセリング指導も継続中

笑う努力

以前、「和顔施^{わがんせ}」という言葉についてお話したことがあります。「無財の七施」の1つで、手元に何1つ役立たせる財貨などがなくても、ただニコリと微笑むだけで、周囲の人の心と目を明るく、楽しくさせることができるということです。

先日、アメリカのドラマを見ている時に改めてそのことを思い出しました。それまで少し暗い内容の笑えない作品を見ていたのですが、何かととも疲れてしまい、たまたま見つけたコメディ作品を見ることにしたのです。するとたちまち、まだ大してストーリーが展開しない内にすっかり楽しい気持ちに変わっていました。どちらかというとまだ不幸な出来事しか起きていないような出だしです。では一体何が私を楽しい気分にするにさせることができたのか。それは紛れもない主人公の笑顔でした。

場面ごとにくると変わるその俳優の表情はすばらしく、中でも笑顔が飛び抜けてチャーミングだったのです。笑顔にもいろいろあってその時どきで全く違う演技をするのですが、どれも視聴者が思わずつられて微笑んでしまうような幸せを運ぶ笑顔です。またその友人も朗らかで、いつも満面の笑みで主人公を支えます。「和顔施」とはこういうことなのですね。

目の前の人の笑顔はもちろん、舞台や映画、

ドラマ、動画や写真であっても、笑顔にはすばらしい効力があるのです。離れている相手でも、電話の向こうで笑って話してくれたなら、その声の明るさに笑顔を連想し、こちら笑顔になることもよくあるのではないのでしょうか。

ただニコリと微笑むだけで少しでもその場が和むなら、誰かの気持ちが楽になるなら、それが何より大切なことです。内なるものが整ってくると、自然と姿・形も整ってくるものですが、内が整わないような時でも姿・形を良くする努力をしていると、内側も自然と整ってきます。絶えず微笑む努力をすることによって、心も自然と温かくなっていくのです。

楽しい時は簡単ですが、苦しい時、辛い時に微笑むことはなかなか容易なことではありません。しかし、楽しいこともなく、うれしいこともないという時でも、目尻を下げ口角を上げて笑う努力をしようと、なぜか楽になってくるから不思議です。目尻や口角にはきっと楽しくなるキーのようなものがあるのでしょうか。

楽しいから笑うのも良いですが、笑うから楽しくなるというのも良いですね。笑いたくなくても笑う努力をすることが誰かの役に立つ、このような考え方や感じ方は、多くの救いをもたらすことでしょう。

日豪
フットボール
新時代

植松久隆 (タカ植松)

ライター、コラムニスト。タカにつぶやき「かつては全国版とQLD版で毎月1本ずつ書いていた当稿。現在は隔月で1本のみと実に4分の1のネタの消化スピードになり必然的に書くネタは厳選している。それでも随時、自薦他薦は問わず新鮮なネタを募集中。フットボール関連で面白い話があればご一報を」

憧憬

筆者は、ブリスベンを拠点にしている。当稿では、余程でない、直接会って聞いた話しか書かない主義なので、取り上げる人物やクラブがQLD州に偏ってしまうのは、ご指摘を受けるまでもなく自認している。それも含めて、ブリスベンを拠点にこの国のフットボールを発信することに地理的ハンデがないという嘘になる。

特に、代表戦に関しては不利益しかない。と言うのも、ブリスベンは明らかに代表戦から見放され続けてきたからだ。なぜそうなったかの大人の事情はここでは触れないが、コロナ禍を挟んで、ブリスベンでは男女の代表戦のいずれも、実に3年以上の長きにわたって行われなかったのは紛れもない事実だ。だからこそ、9月にブリスベンでサッカーズとマチルダスが共に親善試合を行うと知った時は我が耳を疑った。

9月3日、マチルダスのカナダ戦を取材観戦した。試合会場のサンコープ・スタジアムの観衆は、久々の試合にしては寂しい2万5000人を少し超える数にとどまったが、雰囲気は良かった。いつものフットボールの試合と違い、とにかく少女たちの姿が目立った。

マチルダスの好プレーには、普段のフットボールの試合のそれに比べてオクターブ高い、いわゆる“黄色い歓声”がこだまする。スタジアムの



サム・カーは少女たちの憧れの的 (Photo: Nino Lo Giudice)

あちこちでマチルダスのジャージに身を包み、お手製のボードを掲げる少女たちが憧れの選手に目を輝かせる。そんな光景に、この国の女子フットボールの未来の明るさを感じた。

来年7月にNZとの共催となる女子W杯が迫っている。正直、まだ盛り上がりは見られないが、今回のマチルダスの露出を受けて、多くの少女たちが感化され、より真剣にフットボールに励むことだろう。少女たちのマチルダスへの憧^{しょうけい}こそが、フューチャー・マチルダを育てるのだ。元々、QLD州は有望な女子選手を多く輩出してきた土壌がある。試合後に見掛けた、サム・カーに会えてうれし涙にむせぶ少女が次代のマチルダスのエースになるかもしれない。

豪州ラグビー
通信

ラグビー・チャンピオンシップ、ワラビーズは3位

南半球の4カ国による「ラグビー・チャンピオンシップ2022」、混戦を制したのはNZ代表オールブラックス。豪代表ワラビーズは3位となった。

ワラビーズは開幕直前にキャプテン、マイケル・フーパーがマインドセットを理由にチームを離脱。突然の出来事であったが、アルゼンチン代表ロス・プーマスにアウェイで競り勝ち、初戦を白星で飾った。しかし、同じカードの第2戦では17-48と記録的大敗。会場を豪州に移し、南ア代表スプリングボクスとの対戦を1勝1敗とし、ブレディスロー・カップも兼ねた宿敵オールブラックスとの対戦を残すのみとなった。

その最初のゲームでは、序盤より主導権を握っていたオールブラックスに終盤、ワラビーズが逆転に成功。試合終了間際には、ワラビーズが自陣でペナルティーを得て、残りわずかの時間を耐えれば勝利となっていた。後に物議を醸すことになるレフリーのジャッジがあったのはこの時。ワラビーズはペナルティーを得た後、次のプレーを開始するまで故意に時間を浪費したとして反則となり、オールブラックスのスクラムで再開することに。その結果により勢いを増したオールブラックスは、見事にトライを奪い劇的な逆転勝利を飾った。



早期の復帰が望まれる、ワラビーズ、マイケル・フーパー

ワラビーズとしては何とも後味の悪い結果となってしまったが、最後のプレーを守り切れなかったことには変わらず、オールブラックスとの差がそこにあるようにも感じる。最終節は、終始オールブラックスのゲーム。連敗で終えることになった。それにしてもオールブラックス、大会中に一時は世界ランクが過去最低の5位まで下がったが、最後には優勝。さすがだ。

Sunday Footy!!

毎週日曜日(10:30~12:30)、フィッシュ・マーケット近くのウェントワース・パークでは、ラグビー好きの老若男女が集まりタッチ・ラグビーを楽しんでいます。初心者も大歓迎、皆さんぜひお気軽にご参加ください!
Yasu 0412-553-535

YASU

「一度きりの人生、楽しまなきゃソンソン」という感じで、好きなラグビーを楽しむため、約10年間勤務した会社を退職し来豪。ローカルのクラブで10年以上プレーし、もはやラグビーが文化として根付いているこの国から動けなくなっている。日本ももうすぐこのようになるかな? 大の犬好き

Go! ワラビーズ in Japan



山田美千子

ラグビーに魅せられおおよそ20年。「強い時も弱い時も、ナンバーワンはいつでもワラビーズ!」と、自他共に認めるワラビーズ・オタク。歴代の愛犬の名前はワラビーズ選手が由来。得意なことは、ワラビーズの次世代エースを見つけること。苦手なことは、写真を撮られること

日本で活躍が期待されるワラビーたち

ラグビー・ワールドカップ（以下、RWC）フランス大会開幕まで1年を切った。出場各チームはこの春のテスト・マッチで、RWCへ向け、より一層実践的なテストを行っていく段階に入ってきた。

一方、日本国内のリーグ・ワンは、休息の時間を終え、12月の開幕に向けて各チームとも合宿などチーム活動を再開している。

今年も多くのワラビーズのキャップ・ホルダーたちがリーグ・ワンのチームに名前を連ねている。けがの状態が気になるサム・ケレビ選手、ジョーン・マクマーン選手（東京サントリーサンゴリアス）、バーナード・フォーリー選手（クボタスピアーズ船橋・東京ベイ）、マリカ・コロインベテ選手（埼玉ワイルドナイツ）、ウィル・ゲニア選手、こちらもけがの状態が気に掛かるクウェイド・クーバー選手（花園近鉄ライナーズ）、ニック・フィップス選手（グリーンロケッツ東葛）、イン・ナイサラニ選手（静岡ブルーレヴズ）、イスラエル・フォロウ選手（浦安D-ロックス）が引き続き所属。

また、新たに代表20キャップのトム・バンクス選手（三重ホンダヒート）、59キャップのマット・トゥームア選手（三菱重工相模原ダイナポアーズ）の加入発表があった。トゥームア選手は、



マット・トゥームア選手（2020年福岡で）

現在ワラビーズのキャプテンを務めるジェームズ・スリッパー選手らとU20オーストラリア代表のころから、見守ってきた選手だけに復活を期待したい。

オーストラリア出身選手以外にも、強豪国出身の選手も増えてきた。中でも、RWC日本大会優勝国の南アフリカからは、多くの現役選手が来日している。今シーズンは新たに、フランスワ・デクラーク選手（横浜キャノンイーグルス）がやって来る。更に、昨年スーパー・ラグビーにも参戦していたアルゼンチン代表のパブロ・マテラ選手がトム・バンクス選手のチーム・メイトとなる。さて、どんなリーグになるのか。とても楽しみである。

タスマニア巡り



稲田正人

タスマニアのツアー・ガイド/コーディネーター。タスマニア大学で動物学・環境学を学んだ後、のんびりゆったりした生活感に魅せられ、そのままタスマニアに在住。現在は現地旅行会社AJPR (Web: www.ajpr.com.au) に勤務する傍ら、多過ぎる趣味に追われる日々を満喫中

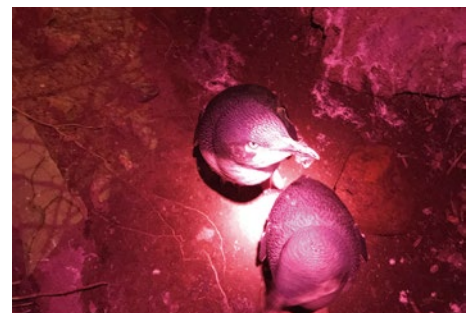
第19回

海の妖精リトル・ペンギン

夏が近づくにつれタスマニアでは、リトル・ペンギンが小柄な可愛らしい姿で行進し、多くの人を魅了します。小さな体型と青く輝く羽毛の色からフェアリー・ペンギン、ブルー・ペンギンなどの呼び名を持つ彼ら。豪州南半分の海岸線に広く分布しています。ニュージーランドにも生息していると言われていましたが、実は極近い別種であることが最近の研究で分かりました。

リトル・ペンギンの平均寿命は6年程度、その生涯の多くを海で過ごします。タスマニアでは彼らが陸に上がるのは繁殖期を迎える10～3月。交尾からひなが巣立つまで3～4カ月程度。その期間も採餌のため日の出から日没まで15時間以上も海に出ます。一夫一妻で繁殖期間は交代で子育てをします。ひな鳥はたいてい2羽で、オスとメスの組み合わせが多いそうです。

リトル・ペンギンの特色の1つは巣穴を掘ること。太く固いくちばしでオスが巣を掘り、求愛します。巣穴は砂地や土、岩場などさまざま。海岸線から数十メートルの時もあれば500メートル以上も内陸に入る場合もあります。いかに外敵に襲われにくいかが重要なのです。採餌から返ってくる時も危険を減らすため皆一緒に海から上がり、団体で巣に向かいます。これが“ペンギンの行進”と呼ばれているのです。



観察時にはライトに赤いセロハンを張りましょう

ペンギンの行進はVIC州のフィリップ島やSA州のカンガルー島が有名ですが、タスマニアでも見ることができます。実はタスマニアは国内最大のペンギンの繁殖地。推定20万ペアが生息していると言われています。そのほとんどが周辺の岩場や小島にあり、州本土では5%程度ですが、それでも各営巣地では夏の間、100～1000羽ものペンギンが繁殖に訪れます。

州内のペンギン観察でお薦めなのは、ツアーがあるビシェノやロウヘッド、観察用プラットフォームのあるバーニーやデバンポート、ブルーニー島。地元ボランティアや自然公園局の職員が観察指導をしており、ルールに沿って可愛らしいペンギンを観察することができます。



フィッツロイにあるメアリーの生家

メアリー・マキロップは、ローマ・カトリック教会によって叙せられた唯一の豪州の聖人である。

メアリーはメルボルン市の誕生と同じ1842年にメルボルン近郊のフィッツロイに生まれた。両親は英国スコットランドからの移民で、40年に結婚して8人の子に恵まれた。父アレクサンダーはカトリック教会の普及に努力したが、金鉱山などの事業は全て失敗して、家族は困窮した。

メアリーは家族を養うために、16歳でコリンズ通りの文具店で働き始めた。18歳から2年間、南豪州ペノーラで大地主である叔母夫妻の子どもたちの住み込み教師をして、近隣農家の貧しい子どもたちの教育を始めた。

20歳の時にビクトリアのポートランドに移転し、全寮制の学校を開校。24歳で妹のアニーとレキシシーと共に、50人の子どもたちを集めてカトリック教会学校を開いた。メアリーは神への献身を誓って黒い服を着用し、女子修道会「人生のルール」をアデレードに開き、修道女の清貧、独立自尊、個人所有の否定、神が与えた仕事への献身など厳しい規律を掲げた。

71年には130人以上の修道女がメアリーの元に集まり、南豪州、クィーンズランド・ブリスベンなどで40を超える慈善学校や組織を設立。また、

アウトバックや地方に住む貧しい子どもたち、親がいない子ども、危険にさらされている少女に教育を与え、弱者の救済、貧しい高齢者への福祉施設を作った。小作農など低所得者層が対象で、豪州の全ての植民地で多くの信者を得た。

ところが、メアリーの女子修道会に立ちかかったのは、既得権益を侵害されたと考える男性カトリック司祭たちであった。彼らは主に富裕層からの寄付金によって豪華な教会組織を維持しており、厳しい規律を守り貧者を対象とする女子修道会を敵視した。司祭たちはメアリーの女子修道会をカトリック教会から破門し、クィーンズランドや南豪州から追放。学校は閉鎖された。

多くの信者から学校や施設の再開を託されたメアリーは、ローマに向かい教皇に面会。教皇ピウス9世はメアリーに活動を続けるよう鼓舞し、女子修道会を教団として認可した。豪州に帰ったメアリーに賛同する各地の司教も増え始め、活動は豪州全土、ニュージーランドなどへ広がった。

メアリーは1909年にシドニーで他界したが、多くの敬愛を集め、聖人の候補に推薦された。そして2010年10月17日、バチカンのサンピエトロ広場でベネディクト16世教皇によって「Saint Mary of the Cross」として聖人に叙せられた。



メアリーが活動の拠点としたペノーラ。クナワラ・ワイナリーで有名



中央がメアリー。1890年に撮影された

出倉秀男の日本料理と歩んだ豪州滞在記

（オーストラリアでの日本食の変遷を辿る）

其の伍拾伍

ジャパン・エキスポ2022

9月の初旬、日本の観光・文化・食などを現地オーストラリアの皆さんにプロモーションするイベント「ジャパン・エキスポ2022」が、シドニー大学のグレート・ホールで開催されました。

あいにくの雨模様にもかかわらずホールには大勢の人が訪れ、大いににぎわいを見せました。

和菓子や酒、米、納豆など日本食の試食販売には人びとが長い列を成し、生け花や書、折り紙の実演や、着物の販売所などにも人集りができていました。特にステージで行われるパフォーマンスなどの催し物に聴衆はとても熱い視線を送り、ステージ上のパフォーマンスが会場の熱量に

押され気味なほど。誰もが日本への観光復活を待ち望んでいるように感じられました。

このイベントに私も参加する機会を得ることができ、15分ほどですがステージ上で、「Japanese Future Cuisine in Australia」というテーマで、JETROシドニー事務所の高原正樹所長とのトークを行わせて頂きました。

半世紀にわたりオーストラリアにおける日本料理の変遷を見てきた私としては、この10年ほどの流通網の発達、ネット社会が変えた飲食業界・日本食材の海外への進出の加速などについては、ある程度予期していました。しかし、Covid-19という、ある意味、これまでの世界の動きを完全に止めてしまったウイルス感染症による大打撃は、当然のことながら予想できませんでした。

15分という短い時間で、そのようなテーマに沿った話を進めていくのはなかなか簡単なことではありませんが、高原所長はプレゼンテーションに慣れておられ、華やかにそしてスムーズに会話を進行し、私は心置きなくテーマに集中することができました。楽しみにしていた高原所長とのコラボレーションも、あっという間の出来事という感じで無事に終わることができました。

イベントで私がいつも楽しみにしているのが「人とのお会い」です。会場にいらっやっていたのは20



～40代の人が多かったでしょうか。彼らが生まれ育った時代は、私は日本食文化の普及においてさまざまなことにチャレンジし、成功と失敗を繰り返し、懸命に突っ走っていたころです。当時を振り返ると、会場となった大学はかなり様変わりしましたが、長い歴史を感じさせるグレート・ホールの重々しい雰囲気は全く変わりありません。

トークの冒頭、私はまず客席に向けて、「日本料理の魅力」を尋ねました。するとある男性から、「Diversity (=多様性)である」という答えが返ってきました。さまざまな移民が共存するオーストラリアには民族の多様性がありますが、日本料理においてもその

多様性に魅力を感じるとのことでした。

実は私自身もこの点、特に地域食に注目していましたので、真っ先にこの答えが聞けたことをとてもうれしく感じました。日本料理の多様性は今後、世界から注目されていくことになるであろうと予測しています。

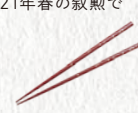
トーク終了後、この男性が、私が最初に出版した本を持ってきてくれて、40年前に残した私のサインが記されているのを見せてくれ、とても感動しました。私はそのサインの横に「It is very nice meeting with you after 40 years!」と付け足し、再会を喜び合い、記念に写真撮影をしました。更に40年後、というのははきかないでしょうが……。

活動を支えてくれたオージーの友人、オーストラリア在住の日系人の方々、更には日本からの支援のおかげで、私はこの日本食文化の普及活動を続けてこられているのは間違いありません。また、私とは方法は違えど、オーストラリアで日本食文化を伝えてこられた方々、今はもう世を去られた方々も含め、1人ひとりの知とエネルギーが繋がっているということ、このイベントを通して感じることができました。

私は80歳に向かいながらも、これまで続けてきた活動を、形やスタイルが変わっても続けていきたいと、日々研鑽しています。そして、今回のイベントのように、さまざまな年齢やバックグラウンドが異なる人たちと交流の機会を、今後も持てることを願っています。

出倉秀男 (憲秀)

料理研究家。英文による日本料理の著書、Fine Arts of Japanese Cooking, Encyclopaedia of Japanese Cuisine, Japanese Cooking at Home, Essentially Japanese他著書多数。Japanese Functions of Sydney代表。Culinary Studio Dekura代表。外務省大臣賞、農林水産大臣賞受賞。シドニー四條真流師範、四條司家師範、全国技能士連盟師範、日本食普及親善大使。2021年春の叙勲で日本国より旭日双光章を受章





初夏のクリスマスの街にポップな着物姿でお出掛け

初夏のクリスマス着物スタイル



きもの日和
Styling vintage kimono
in Melbourne

Wardrobe: Kazari + Ziguzag (W: kazari.com.au)
Stylist: Sala Okabe (W: salaokabe.com)
Photographer: Rina Kakioka (W: rinasmilephotography.com)
Model: Akane Instagram: @qqq_akane

着物、と言えば大半は裏地が付いた袷^{あわせ}と呼ばれる物で、それらは春、冬、秋の3シーズンと着る時期が一番長いのですが、だんだんと夏に近づくころにお薦めなのが単衣^{ひとえ}と呼ばれる裏地が付いていない着物です。

裏地がなくなると生地が薄くなる分涼しくなり、裾さばきも軽やかになります。単衣の着物は初夏と初秋に着るのがお薦めですが、近年の気温の変化により、徐々に着る期間が長くなって来ているような気がします。

夏の着物コーディネートで意識したいのは「軽

さ」。色や小物はなるべく暑苦しいイメージの物は使用せず、爽やかな物を使うのがポイントです。

今回紹介するのは、白地にモダンな赤と緑の葉の模様が散りばめられたまさにクリスマスに打って付けの単衣の小紋。帯には芯がないターコイズブルーのソフトな帯生地をへこ帯の様にふわふわと結び、全体的に軽さを意識。夏鳥であるツバメの帯留めをアクセントに使用し、トータルで南半球ならではの初夏のクリスマスにぴったりのコーディネートに仕上げました。

メイクやヘアは、和装だからしとやかなものにし

なければならぬわけではなく、今回のような元気な着物スタイルの時にはポップかつ華やかに仕上げてみるのも良いですね。年末になりクリスマス・パーティーやお呼ばれが多くなるこの時期、爽やかな単衣の着物でお出掛けなんていかがでしょうか？

Sala Okabe

着物の着付け、スタイリング、着物レンタル及び販売をする着物スタイリスト。インスタグラムなどで新しい着物スタイルの提案や海外で着物を楽しむアイデアを紹介している。Instagram: @kimono_salaokabe







Travel experience
in Japan

Vol.3



A SACRED REGION THAT GAVE BIRTH TO RELIGIOUS FAITH

KOYASAN

Words and Photography: Yuriko Ishii



Located in the depths of Mother Nature, in a vast world of holiness lies Koyasan - a highly accessible Buddhist settlement in Wakayama Prefecture approximately 85 kilometres south of Osaka. This article showcases the many joys that can be experienced on a two-day Koyasan trip.

All Aboard the Train for an Amusing Ride Through Mountainous Greenery

The starting point of my trip was the second-largest city in Japan, Osaka, which can easily be accessed by hopping onto a direct flight from Sydney or Melbourne to Kansai International Airport. I departed from Namba Station, in central Osaka, at 9 am and then boarded the Nankai Electric Railway train for a 50-minute journey to Hashimoto Station. From Hashimoto Station, I then headed towards Gokurakubashi via a sightseeing train called “Tenku”, which connects directly to the cable car at the base of Koyasan. The large windows on the train car grant expansive views of mountains and rivers as the train maneuvers its way through mountains with steep gradients and sharp curves. Another charming feature of the train is the observatory deck that opens your eyes up to the surrounding views of bright yellow canola flowers and rows of cherry blossom trees in spring. Before I knew it, my 40-minute ride on the uniquely designed train was over. After arriving at the distinctively vermilion lacquered Gokurakubashi, I jumped onto the cable car to climb 328 metres up to Koyasan Station. Upon reaching the retro-looking station, I proceeded to take the Nankai Rinkan Bus into Koyasan.

From Naka no hashi to Okuno-in

After hopping off the bus at Okunoin-mae and progressing from Naka no Hashi towards Okuno-in, the first thing I laid my eyes on was the slogan of Koyasan - “live life to the fullest”. While the common teachings of Buddhism speak of entering Nirvana upon one’s death, this slogan reflects the mantra of the Shingon School of Buddhism as preached by Kobo-Daishi Kūkai, where one can attain enlightenment whilst still alive. The Okuno-in cemetery is lined with gravestones of not only the general public from Japan and abroad, but also those of people from companies representative of Japan such as Nissan, Panasonic, and Sharp. Alongside these gravestones, there are also others that honour the victims of disasters such as the

Great Hanshin earthquake and the 2011 Tohoku earthquake and tsunami. The cemetery led onto a lush green road that connects to a shrine and it was here that I was met with a solemn air of awe. Okuno-in is a sanctuary where all followers of Kobo-Daishi Kūkai can visit and set up their own graves regardless of status, ranking, or denomination. This is clear when seeing the vast number of graves celebrating the lives of historical figures as well as other uniquely shaped graves and memorial towers. Further along, across the sacred Gobyō no hashi (bridge), and atop the stone steps stands the magnificent Toro-do (lantern hall). Okuno-in is known as the home of the very cave where Kobo-Daishi Kūkai rests and remains in a state of eternal meditation. The Kobo-Daishi Mausoleum stands within short proximity of the cave as the closest location where people can worship.

Experiencing Meditation at Ekoin

I headed over to Ekoin after a stroll around Okuno-in and then crossed off a forest walk and satisfying lunch off my to-do list. At Ekoin I had the pleasure of experiencing “*ajikan*”, a form of meditation taught in Shingon Buddhism that was spread throughout Japan during the Heian period by Kobo-Daishi Kūkai. Although this form of meditation was originally to help calm the minds of monks, *ajikan* has become a form of meditation taken up by people from all walks of life as the ultimate form of relaxation due to its simplicity – all that is required from participants is that they sit with their hands and legs crossed.

Before entering the temple, you must first cleanse your body. Next, take a pinch of *zuko* (incense powder) with your dominant hand and rub the incense powder into both hands. Then sit cross-legged on a *zafu* (a cushion used for Zen meditation), form a lotus bud shape with both hands, and bow. First-timers need not fret as a monk will be there to carefully guide you through the motions. With both eyes half-closed, look at the “阿” (read as “a”) Sanskrit character on the hanging scroll as you join your hands together in front of your belly button and take steady breaths. Picture the fresh air entering your





body with every breath in through your nose and out through your mouth. After that, repeat the process. The “阿” character represents the Buddha, Dainichi Nyorai, who is said to be the origin of all teachings in Shingon Buddhism. The character on the scroll appears to be positioned on top of a flower and is said to be symbolic of “oneself” sitting on a lotus flower. There is a notion in Shingon Buddhism that says that the Buddha and oneself are one in the same. I felt purified as the fragrance of the sacred incense wafting around the hall entered my body through my deep long breaths. Experiences such as this meditative one and others, including sutra copying, can be found in many different temples in the Koyasan area. It is the perfect place to spend invaluable time enriching your five senses.

Exploring the Life of a Pilgrim

An experience that absolutely cannot be missed during a trip to Koyasan is a stay at a temple or “*shukubo*”. *Shukubo* refers to lodging for pilgrims or visitors to a temple. These guesthouses were originally only open to monks, or pilgrims looking to cleanse their minds and bodies. In more recent days, the number of temples welcoming tourist stays is increasing along with the improvement of their facilities, services, and access to numerous temple culture experiences. In the past, there were 2000 temples in Koyasan. Now, there are 117 temples and half of them offer temple lodging. My place of choice was Kofuku-in, which offers everything you would expect from a typical Japanese inn, from the antique furnishings to the Buddhist cuisine and the tatami mat rooms. My Buddhist cuisine dinner was particularly lavish despite only using vegetarian ingredients such as grains, beans, and vegetables. Whilst learning about the history of Koyasan and Japanese culture first-hand, visitors also get to take a glimpse of the lives of monks as they are given the opportunity to participate in exclusive experiences including morning prayers performed by the chief priest. Once you step foot into the sacred atmosphere of the temple, you will undoubtedly understand why it attracts a constant stream of domestic and international tourists.

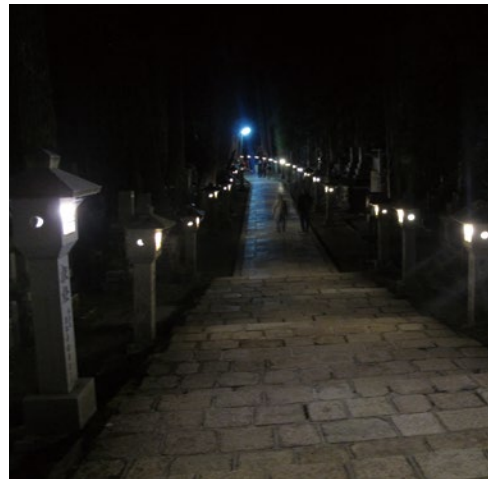
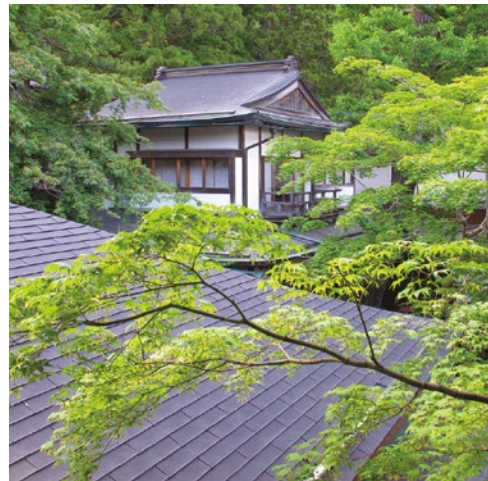
A Night Tour of Okuno-in

After having dinner at the *shukubo* I joined a guided tour which took us to the Okuno-in mausoleum. On the 2 kilometre one-way

journey to the mausoleum, the trainee monks share insights about topics including, legendary Koyasan Kobo-Daishi Kūkai tales; moral Buddhist teachings; and their experiences training as monks. These tours, which are offered in English as well as Japanese, are run during the day and at night. The night-time tour exposes you to a mysterious and solemn atmosphere not quite as prominent during the day-time tour. The most memorable part of the tour was the explanation about the “*gorinto*”, the memorial towers that can be spotted all around Okuno-in. The teachings of Shingon Buddhism say that the universe is made of 5 elements. The 5 rings of the *gorinto* are said to be modelled on the 5 elements - earth, water, fire, wind and void. Along with this fascinating tidbit, the trainee monk guide also elaborated on stories about the garden lamps with their moon phase motifs; Sugatami-no-ido (Well of Reflections), as well as the resting places of various historical figures. If any of this happens to pique your interest, I highly recommend this tour which allows you to further understand the enticing wonders of Koyasan (Awesome Tours: <https://awesome-tours.jp/en>).

Must-See Spots in Daimon, Danjo Garan and Kongobu-ji

On the following day, I explored Dai-mon, Danjo Garan and Kongobu-ji. I began my day by visiting Dai-mon, the main gate of Koyasan, which stands 25.8m tall and has *kongo* warrior statues standing guard on either side. From Dai-mon, I walked towards Danjo Garan, the fundamental centre of Shingon Buddhism and heart of Koyasan. Together with Okuno-in, Danjo Garan is known as Koyasan’s area of immense purification. Standing tall in the centre of this area is the 48.5 metre tall, eye-catching, bright vermillion *Konpon Daito* Pagoda. The pagoda is surrounded by 4 Buddha statues and houses the “Dainichi Nyorai Mandala”. Depicted on the 16 pillars of the pagoda are the “16 Bodhisattvas” and the “8 Patriarchs” on the 4 corners, while the pagoda itself is a three-dimensional mandala. The intricate details of this beautiful pagoda leaves many visitors speechless. There is a plethora of sights to see including the Kon-do (Hall), once known as the “lecture hall” and used as the main hall during the mid-Heian period; the Mie-do (Hall), which is a unique pyramid-shaped building representative of Danjo Garan, standing at





15m in height and width; and Sanko Matsu that is positioned between the two hot spots. The beautifully constructed Rokkaku Kyozo (hexagonal depository of the scriptures) is another aesthetically pleasing structure that has a unique hexagonal shape. The building, used as a storehouse for sutras, can be rotated by the handles fitted near the base. One rotation of the building is said to provide you with the same virtue as if you had read all the sutras. The opportunity to rotate a historic building with your own hands is a unique experience that should not be passed up. Another place to visit is Kongobuji Temple, the main temple of Shingon Buddhism located near the centre of the mountain sanctuary. When Kobo-Daishi Kūkai founded Koyasan, the entire area was called Kongobu-ji Temple, however, from the Meiji period onwards the name only refers to the one temple. Visitors can enjoy Japanese architecture, beautiful *fusuma* paintings and sculptures filled with history.

Kudoyama and Jison-in

After leaving Kongobu-ji, I headed to Jison-in Temple in Kudoyama. Kobo-Daishi Kūkai established the *konpon dojo* of Shingon Buddhism approximately 1,200 years ago

when he was bestowed the land of Koyasan by Emperor Saga. To many people's surprise, it wasn't until the 5th year of the Meiji period (1872) that the strict restrictions against women visiting the area were finally lifted. Although Koyasan is now a popular tourist destination and World Heritage Site that is open to anyone and everyone, remnants of the restrictive era can still be found. The Nyonin-do halls (hall for women) built at the entrances to Koyasan are distinctive examples as female worshippers who were denied entry into Koyasan could only visit and pray in these halls. Jison-in Temple, located about 30 minutes by train from Koyasan, was established by Kobo-Daishi Kūkai as a "*nyonin-koya*" or a place where women can freely gather to pray. During the period when females were forbidden, it is said that Kobo-Daishi Kūkai's own mother could not even catch a glimpse of her child due to strict restrictions. Kūkai's routine of walking down "Choishi-michi" (mile stone route) 9 times a month to visit his mother is said to be the root of the name "Kudoyama" or literally, "9-time mountain". Choishi-michi (mile stone route) owes its name to the guide stones placed at every *cho* (approximately 109m) to lead the way towards Koyasan. While Jison-in was the last place I decided to drop by on my trip, many travellers start their trip at Jison-in and

make their way to Dai-mon in Koyasan on foot by following the Choishi-michi.

Due to its designation as a *nyonin-koya* (Temple for women), Jison-in sees many female visitors offering breast-shaped ema (votive tablet) at the temple for spiritual sustenance in areas of women's needs such as fertility, safe birth, child-rearing, breastfeeding and good marriage. Prayers made for the recovery from breast cancer have particularly increased in recent years. This has led to high demand for pink charms from women all over the country, since pink is a colour synonymous with breast cancer eradication. The many "breast ema" offered to the shrines are handmade. The dearest prayers of women are written on these breast ema including prayers for the good health of their family, and hopes for their children to grow up healthy.

If you happen to find yourself in Koyasan, make sure to drop by these historically-rich locations. Approximately 1,200 years have passed since Kobo-Daishi Kūkai opened up the Shingon Buddhist dojo, yet it still retains its beautiful nature and traditional culture. Get away from the hustle and bustle of the big cities and hone your 5 senses in the solemn atmosphere for an unforgettable experience.

Web: <https://en.visitwakayama.jp>

Vol. 5 - What is *seijin no hi*?



Coming-of-age day

Seijin no hi is a public holiday held on the second Monday of January, which celebrates young people who have reached, or will reach, the age of maturity (20 years old) between 2 April of the previous year and 1 April of the current year.

When young people reach this age, they are officially recognised as adults in Japanese society. This means that they are legally allowed to drink alcohol, smoke, gamble, and drive (note: for a long time, another liberty 20-year-olds gained was the right to vote; however, the voting age was lowered from 20 to 18 in April 2022).

In essence, *seijin no hi* is a graduation day from childhood to adulthood.

Coming-of-age ceremony

The highlight of *seijin no hi* is the *seijin-shiki*, a coming-of-age ceremony usually held at local city halls and prefectural

offices. A *seijin-shiki* usually features:

- the singing of the Japanese national anthem;
- speeches from the mayor/municipality's representatives/government officials on what it means to be an adult and the responsibilities young people have in society;
- speeches by a male and female representative of the attendees, to show their gratitude to family and seniors, and talk about their future aspirations; and
- the gifting of a commemorative gift from the event.

The large-scale ceremonies are usually followed by smaller after-parties amongst close friends and family.

Coming-of-age attire

On the day, women typically get dressed up in traditional *furisode*, a special type of *kimono* (garment) meant for unmarried young women, with long sleeves that hang

down. Thick-soled sandals called *zōri* are usually worn with a *furisode*, accompanied by *tabi* (split toe socks).

Men, on the other hand, often stick to formal western attire (i.e., suit and tie), but some will choose to wear a traditional men's *hakama*, a type of loose-fitting trousers, with a *haori*, a long jacket that is tied at the waist.

Post 2022

The Japanese Government amended the civil code in April of this year. This was the first amendment of its kind in Japan in 140 years. The amendment was to officially lower the 'adulthood age' from 20 to 18.

This meant that from 2022 onwards, new adults are now allowed to marry, sign contracts, and take out loans without the consent of their parents. However, they are still banned from drinking alcohol, smoking and gambling, and must wait until they are 20 to finally attain these liberties.

Chairperson	作野善教	Yoshinori Sakuno
CEO/Editor in Chief	馬場一哉	Kazuya Baba
Art Director	脇村淳子	Junko Wakimura
Editors	石井ゆり子	Yuriko Ishii
	原田 紘	Tadasu Harada
	阿部慶太郎	Keitaro Abe (Intern)
Translator	浅野美貴	Miki Asano
Sales & Marketing	田代明日香	Asuka Tashiro
	遠藤みどり	Midori Endo
	石田茉緒	Mao Ishida (Intern)
Digital Marketing	クラークさと子	Satoko Clarke
	昆悠大	Yudai Kon (Intern)
Accountant	ローズ・シェン	Rose Shen

NICHIGO PRESSについて

1977年10月、豪州初の邦字新聞として発行を開始。2017年、日豪の架け橋としての功績を讃えられ、日本国政府より「外務大臣表彰」を授与される。コロナ禍において、半年間の休刊を余儀なくされたが20年10月、新運営会社「日豪プレス・メディア・グループ」の元、フルカラーの雑誌として再創刊を果たした。

Since 1977



電子版のダウンロードはこちらから ▶ nichigopress.jp

Nichigo Press Media Group Pty Ltd

広告掲載、配送に関するお問い合わせはこちらまで
(Please contact us for inquiries about advertisements and delivery)
npsales@nichigo.com.au

本誌へのご意見・ご要望はこちらまで
(If you have any requests and opinions, please contact us below)
npsyd@nichigo.com.au

郵便事情により、配達日が遅れることがございます。ご了承ください。

<おことわり>NICHIGO PRESSは、掲載記事の正確さに万全を期していますが、掲載後にデータや情報に変更の可能性があることをご承知ください。また、広告、社外寄稿者の記事に関しては、内容が必ずしも社の見解を反映したものではないことをご断りいたします。なお、掲載記事、写真、図版の無断転載を禁じます。掲載される広告内容は連邦公正取引法（1974年）及びニュー・サウス・ウェールズ州公正取引法（1987年）、著作権法（1968年）及びこれらの法律に類似する法律の規定に違反するものではないことを条件にしていますが、広告の内容や信ぴょう性に関する責任は負いかねますのでご了承ください。

編集後記

東京五輪で見事銀メダルに輝いたバスケット女子日本代表がシドニーに。女子バスケットワールドカップのオーストラリア開催は、バスケットファンとしてはかなり胸躍るニュースで、当初は現地メディアとして代表が絡む全試合を取材、インタビューなどを考えていた。しかし、小さな子ども2人を抱える中、連日家を空け、場合によっては深夜帰りというのは家族にとってもきつく、かつ日本代表クラスになれば大手メディアの報道も確実にあるので無理に出張する必要ないと判断。代わりに週末1試合だけ家族で観戦しに行った。問題は魔の2歳の息子がおとなしくしてくれているかだったが、杞憂に終わった。普段は使わせることはない伝家の宝刀「iPad」を渡したところ、日本戦前のオーストラリア代表の試合から、日本対カナダ戦が終わるまで数時間画面に没頭。すごいiPad（とYouTube）。だが大変なのはその後。iPadを取ろうとすると大泣き、そして道端に寝そべり動かない。何とか連れ帰っても「あいばっど、あいばっど」と連呼（いつその単語覚えた）。伝家の宝刀は諸刃の剣でもあった。代表は残念ながら予選落ちしてしまったが、期間中はバスケットの楽しい時間を過ごすことができた。ありがとう日本代表。

（馬場）

最近、特にスーパーなどで買い物をする際、物の値段が上がっていると実感することが多い。お菓子や飲料など食品、日用品の値上げが相次ぎ、物価上昇は収まる気配がない。原材料価格の上昇や、原油高騰による包装資材・運送費の上昇が理由で、日本では物価上昇は年内にピークを迎えると言われている。これまで、さほど真剣に考えてはなかったが、節約の方法や将来を見据えての投資について情報収集しながら、経済状況や世界情勢にも目を向け、本気でインフレ対策を考えていかなければならないと思う。

（石井）

今年の4月にワーキング・ホリデーで来豪し、6月からインターンシップとして日豪プレスで約3カ月間勤務してきた。きっかけは単純で、どうせならいろいろなことにチャレンジしたいと思ったからだ。3カ月の勤務を終えた今、あの時応募して良かったという気持ちでいっぱい。ウェブサイトをSNSの運営、人材紹介、記事編集など、本当にたくさんさんの経験をさせてもらった。初めてのインターンシップで右も左も分からない中、手取り足取り教えてくれた日豪プレスの皆様、本当にありがとうございました。

（昆）

「NICHIGO PRESS」定期購読のお知らせ

NICHIGO PRESSを毎月ご自宅までお届けします！

NICHIGO PRESSはデジタルでもお楽しみ頂けますが、上質な購読体験を提供すべくページをめくる際の質感など紙質にもこだわっております。ぜひ、この機会に誌面の定期購読をご検討頂けましたら幸いです。

お申し込み方法 NICHIGO PRESS定期購読お申し込みはこちらから ▶
Web: nichigopress.jp/subscriptions

購読料 オーストラリア国内：12回分\$110、6回分\$66
日本国内：12回分\$380、6回分\$190



お問い合わせは、日豪プレスまでお気軽にどうぞ。
Email: npsales@nichigo.com.au

東京での不動産物件は、
叶屋不動産へ!!



- 土地・マンションの売買
- 不動産物件の管理
- 不動産相続のコンサルタント



かのうや
叶屋不動産株式会社
代表：板屋雅博 携帯：81-80-4419-1510
所在地：東京都千代田区神田神保町1-38 森ビル
電話：81-3-3518-9545 Fax: 81-3-3518-9546
Email: info@kano-ya.biz Web: kano-ya.biz

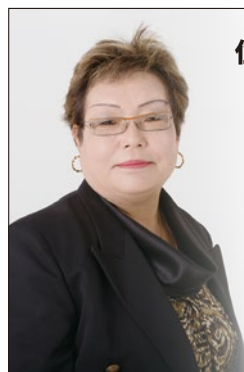
7935KANO

住宅の売買ならモトにおまかせ下さい。

100年以上の実績・信頼のある老舗のレイホワイトで30年の経験があるモト・ウォーターズが皆様のご要望にあった最適物件の売買のお手伝いをします

**Gold Coastの不動産に
関してはお任せ下さい**

経験豊富なモトまでご一報下さい
お問い合わせ：+61-414-760-682 まで



Ray White
The Surfers Paradise Group

Ray White Surfers Paradise Group
Level 2, 50 Cavill, Surfers Paradise 4217, QLD
TEL: (07) 5538 1555 Email: m.waters@rwp.com.au

3434RAYW



PHOENIX

LAW & ASSOCIATES フェニックス法律事務所

在豪歴30年以上の信頼と実績 個人並びに法人の様々なニーズに専門家が対応いたします。



取り扱い案件例

- 商業案件各種
- 交通事故
- 傷害賠償手続き
- 労働災害
- ビジネス売買
- M&A案件
- 国際取引契約手続き
- 各種民事訴訟・裁判
- 家庭法(離婚・財産分与、親権)
- 遺言状・相続計画
- 雇用関連・不当解雇
- 各種ビザ、移住コンサルティング、AAT調停、市民権

📍 Level 16 300 Adelaide Street, Brisbane QLD 4000

☎ +61 7 3180 0908

📞 +61 7 3319 6131

✉ info@phoenix-law.com.au

日本語でお気軽にご相談ください。(日本語直通番号:0478 012 409)

安心と満足をお届けすること

法律家に大切なのは、豊富な経験と知識、人脈、そして法律家としてのセンス。的確なアドバイスと迅速な対応でクライアントへ「安心と満足をお届けすること」それが私たちの使命です。

-主任弁護士・林由紀夫をはじめ、日本語対応の弁護士5名を含む28名の弁護士が在籍-

商取引全般・会社法・雇用法・M & A・ビジネス売買
 紛争解決・民事訴訟・知的財産
 不動産売買/リース契約・移民法/ビザ申請代行
 家族法・遺産相続・刑事訴訟

H&H Lawyers

H & H 法律事務所

Tel: (02) 9233 1411 | info@hhlaw.com.au
 www.hhlaw.com.au
 Level 5, 32 Martin Place, Sydney NSW 2000

弁護士選択時のポイント

- 1 迅速対応
- 2 安心の弁護士固定費用
- 3 不動産売買やリース・相続手続きの取り扱い件数は大多数で経験豊富
- 4 日本の習慣を踏まえ日本人弁護士による日本語アドバイス
- 5 二国の法律・税法の豊富な知識
- 6 専門家(銀行・税理士・会計士)の有力なネットワーク
- 7 頻繁な国内外セミナー活動
- 8 実務経験18年の実績

Harding Legal
ハーディング法律事務所

<お問い合わせ>

Email: yh@hardinglegal.com.au
 携帯: +61 421 779 164 まで
 オフィス電話: +61 7 5630 3877
 ウェブサイト: www.hardinglegal.com.au
 オフィス住所: 2707 Level 7 Southport
 Central Commercial Tower 2,
 5 Lawson Street Southport QLD 4215



豪州弁護士 ハーディング裕子

YouTube豪州弁護士ハーディング裕子のリーガルチャンネルでは、オーストラリア経済やビジネス、不動産事情等幅広くお話しています。

0331410

お世話になったあの人へ、感謝の気持ち贈ります

想いよ、 届け。

愛情を込めて育てた
オーストラリア産プレミアム・マンゴーを
真冬の“日本”にお届けします！

常夏のオーストラリア・ケアンズ高原地帯から届く最高の贈り物。
御歳暮や冬の贈答品に最適です。

数量制限あり。在庫なくなり次第終了。

※写真はイメージです。

早割

キャンペーン

早割期間

10月10日▶
11月30日

申込受付

10月10日▶12月下旬予定

ケンジントンプライド

オーストラリアを代表するマンゴー。
世界トップクラスの品質。リッチな甘さが好評。

	通常価格	早割価格
2.0kg(4~8個)	AU\$125	AU\$120
3.3kg(6~12個)	AU\$165	AU\$160
5.3kg(10~17個)	AU\$265	AU\$260

送料
無料

予定
発送期間
11月下旬
12月下旬

※オーストラリアドルでの料金となります。



新型コロナウイルスに
伴う影響について

コロナウイルスの影響により以下の対応となります。予めご了承ください。
●配達日指定はお受けできません。●品薄のため申込受付の終了時期が早まる可能性もございます。

詳しくは
Webへ！



※お届け不可の地域もございますので予めお問い合わせ下さい。※沖縄へは別途\$16かかりますので詳細はお問い合わせ下さい。
※マンゴーの収穫量によって期日が変更になることもございます。※数量に限りがあるため、なくなり次第終了とさせていただきます。
※外貨にてお申し込みの場合、返金・キャンセル等で為替差損が生じる可能性がございます。

www.okgift.com.au/premiummango/

OK GIFT SHOP CAIRNS 61 Abbott St. Cairns QLD 4870 TEL:07 4031 6144 FAX:07 4031 6313 EMAIL:mango@okgift.com.au